

2022 年度

ネクストプログラム履修の手引

目次 ネクストプログラムについて

Q:ネクストプログラムとは?	1
Q:学位プログラムとネクストプログラムの違いは?	1
Q:どのようなプログラムがあるの?	1
Q:ネクストプログラムを修得するメリットは?	2
1. ネクストプログラム履修開始から修了認定証授与まで	
(1) ネクストプログラムガイダンスへの参加について	3
(2) ネクストプログラム履修手続について	4
(3) ネクストプログラムの履修中止について	4
(4) ネクストプログラム履修証明書の発行について	5
2. 各プログラムの紹介	
(1) グローバル人材育成プログラム	7
(2)防災士養成プログラム	12
(3) 人間探求(文学作品熟読)プログラム	14
(4) ヒューマニティーズ (人文学) プログラム	16
(5) DRI イノベーター養成プログラム	18
3. ネクストプログラム関係規程	
◆香川大学ネクストプログラム規程◆	21
◆グローバル人材育成プログラム履修細則◆	25
◆防災士養成プログラム履修細則◆	29
◆人間探求(文学作品熟読)プログラム履修細則◆	33
◆ヒューマニティーズ(人文学)プログラム履修細則 ◆	35
◆香川大学ネクストプログラム・DRI イノベーター養成プログラム履修細則◆	· 41
◆香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規程◆	55
◆香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラム参加学生の修	
援に係る奨学金貸与細則◆	57
4. 問い合わせ先・案内図	
◆問い合わせ先・案内図	63

ネクストプログラムについて



ネクストプログラム履修の手引には、ネクストプログラム修了の認定を目指す上で 重要なことが書かれています。熟読するようにしましょう。



Q: ネクストプログラムとは?

ネクストプログラムは、学生のみなさんが所属する学部での学習(学位プログラム)に加え、学部の枠を超えて、主体的に学習する自由参加型の特別教育プログラムです。

学生のみなさんは、所属する学部で学位プログラムを学びながら、現代社会が抱えるさまざまな課題の解決に向けて、今後重要性を増す分野、従来の学問体系にとらわれない分野などをネクストプログラムで学ぶことが出来ます。

Q:学位プログラムとネクストプログラムの違いは?

学位の取得を目的として、教養教育及び専門教育を一貫して編成した教育プログラムは「学位プログラム」と呼ばれており、それ以外の特定分野を勉学することを目的に編成した教育プログラムは「特別教育プログラム」になります。ネクストプログラムは特別教育プログラムに当たります。

学位プログラムの勉学の成果は、卒業時に「学士」という称号を得ることで、社会的に認知されます。 しかし本学ではこれまで、専門以外の分野について学習成果を認証する制度はありませんでした。ネクスト プログラムでは一定の修了要件をクリアした学生に対して、特定分野を学んだことの証明として大学が公的に 「修了認定証」を授与します。

Q:どのようなプログラムがあるの?

以下の5つのプログラムを開設しています。

※ただし、人間探求(文学作品熟読)プログラムは2019年度から新規募集を行っていません。

① グローバル人材育成プログラム(英語コース・中国語コース)

プログラムの目的

国際的に通用する語学力と、国際的視野に立った専門知識や技能を深め、グローバル化の進む 地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成することを目指します。

② 防災士養成プログラム

プログラムの目的

防災士の資格を持ち、職場や地域で率先して防災活動を行うことができる知識と技能を持つ人 材を育成することを目指します。

防災は現代社会の喫緊の課題であり、地域や職場の人々の生命・身体や財産に関わる被害が少 しでも軽減されるように活動できる人材が求められています。

※「防災士」はNPO 法人日本防災士機構が認定する資格です。

③ 人間探求(文学作品熟読)プログラム

プログラムの目的

あらゆる局面で変化が激しい現代社会。本プログラムは、刻一刻と状況の変化する社会を生き 抜く、しなやかな人材を育成することを目指します。

- ※人間探求(文学作品熟読)プログラムは2019年度から新規募集を行っていません。
- ④ ヒューマニティーズ (人文学) プログラム

プログラムの目的

社会は今、すぐに役に立つものにとらわれない発想力を求めています。それを身につけられるのは、いろいろな角度から人間を探求する「人文学」です。本プログラムは、人文学のさまざまな分野(哲学、歴史、芸術・文化等)を学ぶことで、多角的な視点で物事を捉えられる力を育むことを目指します。

⑤ DRIイノベーター養成プログラム

プログラムの目的

人口減少や少子高齢化が進行する地域社会の課題を解決するためには、新たな価値をつくりだす必要があります。このような社会的要請に応えるために、このプログラムでは、DRIを通して、あらゆる人間が安心して生活できるためのイノベーションを創造できる人材の育成を目指しています。

Q:ネクストプログラムを修得するメリットは?

◆ 幅広い知識を得られる。

学生のみなさんは、自分の興味のある分野、将来なりたい職業を考えて所属する学部・学科を選んだことと思います。しかし、必ずしもその分野だけに興味があるわけではないのではないでしょうか。また、派生的に他の分野を学びたいのではないでしょうか。ネクストプログラムを活用することで学位プログラム以外の関心のある分野を学ぶことができ、修了認定も受けることができます。

◆ 学位プログラムの学習を補うことができる。

学部・学科では到達目標が定められており、その目標を達成するためのカリキュラムが作成されています。学生はカリキュラムにそって授業を受講していきますが、ネクストプログラムを上手に活用することで到達目標を達成する手助けになります。

◆ 就職活動に活用することができる。

就職活動ではエントリーシートや面接などで大学で何を学んできたか聞かれる場合があります。そのようなときに学部での学習だけではなく、ネクストプログラムで幅広い知識と多様な経験を得たことをアピールすることができます。就職活動でネクストプログラムをアピールしたい学生には、3年次以降に「ネクストプログラム履修証明書」を発行します。(履修証明書の発行方法は『(3)ネクストプログラム履修証明書の発行について』を参照)

1. ネクストプログラム履修開始から修了認定証授与まで

(1) ネクストプログラムガイダンスへの参加について

① ガイダンス

■ 4月3日(日)午前 ネクストプログラムガイダンス(全体説明)(入学式後の新入生ガイダンスにて開催)

■ 4月4日(月)午前 ネクストプログラムガイダンス(各プログラムの説明) (新入生の全学共通科目ガイダンスと合わせてビデオ開催)

2年生以上の参加希望の学生は、大学会館2階の修学支援課の窓口に来てください。

② 各プログラム説明会

学期始めに各プログラムの説明会が開催されます。2022年度は、以下のとおり予定しています。

■ グローバル人材育成プログラム(英語コース)説明会

4月4日(月)午前 ネクストプログラムガイダンス(ビデオ開催)で説明します。

■ グローバル人材育成プログラム(中国語コース)説明会

中国語の授業の中でプログラムの説明を行いますが、全学共通科目の初修外国語で予め中国語の 履修希望を提出し、中国語 I の登録を行った人のみプログラムに参加することができます。

■ 防災士養成プログラム説明会

4月4日(月)午前 ネクストプログラムガイダンス(ビデオ開催)で説明します。

1年生の参加希望者は、特別主題(地域)「防災リテラシー養成講座(災害を知る)A」を受講してください。

*第1回目授業 4月14日(木)5校時

2年生以上の参加希望者は、4月12日(火)12:10~12:30のオンライン(Zoom) 説明会に参加してください。なお、参加に先だって、前日(4/11)までに、右のQRコードから、事前登録をしてください(登録は、名前は本名、メールアドレスは学籍番号を含んだ本学のメールアドレスでお願いします。)。 当日参加できない学生は、修学支援課(大学会館2階)に申し出てください。



■ ヒューマニティーズ(人文学)プログラム説明会

4月4日(月)午前 ネクストプログラムガイダンス(ビデオ開催)で説明します。

■ DRIイノベーター養成プログラム説明会

4月4日(月)午前 ネクストプログラムガイダンス(ビデオ開催)で説明します。

※人間探求(文学作品熟読)プログラムは 2019 年度から新規募集を行っていません。

(2) ネクストプログラム履修手続について

各プログラムに参加する場合は、各プログラム紹介ページを確認の上、次のことに注意しながら、履修計画を立てましょう。

- ① 各プログラム必修の全学共通科目(●下記参照)の履修登録が必要です。これらの科目を受講しないと次のステップに進めないカリキュラムとなっています。
 - ●1年次前期(1Qと2Q)に履修しておかなければならない各プログラムの必修科目は以下のとおりです。
 - ・グローバル人材育成プログラム(英語コース)

【CommunicativeEnglish I】、※【IntensiveEnglish I】

・グローバル人材育成プログラム(中国語コース)

【中国語 I】、※【中国語速修 I】

※の科目は、参加登録申請書を提出された学生について、修学支援課にて履修登録します

・防災士養成プログラム

【特別主題(地域)・「防災リテラシー養成講座(災害を知る)」A】 【特別主題(地域)・「防災リテラシー養成講座(災害を知る)」B】

- ② 各プログラム参加登録については、以下のとおりです。
 - ・グローバル人材育成プログラムは、グローバル人材育成プログラム履修細則の「グローバル人材育成プログラム参加登録申請書」(様式1)を印刷し、必要事項を記入して英語コースは4月15日(金)、中国語コースは5月31日(火)までに修学支援課へ提出してください。
 - ・防災士養成プログラムは、2年次以上の年度初め(4月15日(金)まで)に防災士養 成ブログラム履修細則の「防災士養成ブログラム参加登録申請書」(様式1)を提出し てください。
 - ・ヒューマニティーズ(人文学)プログラムは、4月15日(金)若しくは10月14日 (金)までにヒューマニティーズ(人文学)プログラム履修細則の「ヒューマニティーズ (人文学)プログラム参加登録申請書」(様式1)を修学支援課に提出してください。
 - ・DRIイノベーター養成プログラムは、4月15日(金)若しくは10月14日(金)までにDRIイノベーター養成プログラム履修細則の「DRIイノベーター養成プログラム参加登録申請書」(様式1)を提出してください。

※人間探求(文学作品熟読)プログラムは 2019年度から新規募集を行っていません。

- ③ 学部・学科(皆さんが所属する学部での専門の授業)の履修がおろそかにならないようにしましょう。
- ④ 履修中にわからないことがあれば、修学支援課に相談してください。

(3) ネクストプログラムの履修中止について

ネクストプログラムの履修を中止する場合は、「香川大学ネクストプログラム規程」の「ネクストプログラム履修中止申請書」(様式2)を下記の期間中に修学支援課へ提出してください。

前期:8月1日(月)から9月15日(木)まで 後期:2月1日(水)から3月15日(水)まで

なお、履修を中止した場合は、ネクストプログラム参加者のみが履修できる授業科目の履修はできなくなります。

ただし、担当教員より成績評価された授業については履修及び成績の取り消しは行われません。

(4) ネクストプログラム履修証明書の発行について

ネクストプログラムの修得が最終的に証明されるのは、「ネクストプログラム修了認定証」が授与されてからになります。

就職活動などでネクストプログラムを履修していることをアピールしたい学生のために、「ネクストプログラム履修証明書」が用意されています。以下の履修証明書の発行要件を満たした方は、修学支援課まで申請すれば随時証明書を発行します。

◎履修証明書発行要件

- ①学生本人からの「申請」により発行する。
- ②発行対象は、3年次生及び4年次生とする。
- ③発行にあたっては以下の基準を満たすこと。
- ・各プログラムの全学共通科目を履修済み又は履修中であること。

香川大学ネクストプログラム履修証明書

香川大学

○○学部 ○○学科・課程

学籍番号 〇〇〇〇

氏 名

上記の学生は、本学が開設している下記のネクストプログラムを履修中であることを証明します。

記 〇〇〇〇プログラム

令和〇〇年〇〇月〇〇日

香川大学

理事(教育担当)〇〇 〇〇

公印

2. 各プログラムの紹介

(1) グローバル人材育成プログラム

英語コース

対象学生

参加を希望する学生に対してヒアリングを実施し、選抜します。

(1年次の7月に TOEIC 550 点以上取得できることが選抜の目安です。)

授業科目

プログラム(英語コース)に関わる開設学部、授業科目等については、「グローバル人材育成プログラム履修細則」別表1(英語コース)を参照してください。

自主学習

ネイティブスピーカーとの対話レッスン等の自主学習を行い、TOEFLにチャレンジします。また、自主学習のためのプログラム専用室は、北4号館の3階(『4.問い合わせ先・案内図』参照) にあります。

◆TOEFLはアメリカ留学に必要な英語検定試験です。

留 学

指定された海外の大学に原則として1年間留学し、指定の関連授業科目をグローバル人 材育成プログラムの授業科目として修得しなければなりません。

留学先◆カリフォルニア州立大学フラトン校 他

奨 学 金

奨学金等については、下記の費用を一部補助します。

- (1) TOEFL受験料(2) 留学先の寮費(3) 海外留学保険料(4) 渡航費
- (5) 留学先大学の授業料

修了時

修了認定審査を通過した学生に対して、「ネクストプログラム修了認定証」を卒業時に 授与し、特に優秀な成績を収めたと認められる学生には卒業時に学長表彰を行います。 また、就職活動などで、グローバル人材育成プログラムの履修をアピールしたい場合な どは、3年次以降、「ネクストプログラム履修証明書」を発行することができます。

- ① 本プログラムで1年間留学することにより、4年間で卒業できない場合があります。 なお、本プログラムの留学を理由に休学することはできませんので、留学期間中は本 学の授業料が徴収されます。また、留学によって修業年限を越えた(留年した)場 合、修業年限を越えた期間の授業料が徴収されますので御注意ください。
- ② 法学部・経済学部の学生が本プログラムに参加する場合、法学部・経済学部の特例措置(★)を受けることができます。
- ③ 医学部の学生は本プログラムに参加することができません。

注意事項

- ④ 教育学部・創造工学部(工学部)・農学部の学生が本プログラムの履修を希望する場合は、参加が可能かどうかを事前に所属学部の学務係に相談して下さい。
- ★ (法学部・経済学部の特例措置)

全学共通科目の外国語は、通常、初修外国語6単位と既修外国語4単位の組み合わせか、初修外国語4単位と既修外国語6単位の組み合わせで10単位必要ですが、本プログラムに参加する場合は、既修外国語(英語)10単位のみで卒業単位と認定されます。ただし、本プログラムの履修を中途で取り止めた場合や、終了認定されなかった場合、この特例措置は適用されません。

グローバル人材育成プログラム(英語コース) 修了認定証授与までの流れ(モデルケース)

入学後

新入生ガイダンス(ネクストプログラムガイダンス)に参加



履修希望者は

説明会に参加→履修科目の相談・調整



履修手続・参加登録

プログラム関連授業科目の履修手続き・参加登録申請書提出



全学共通科目

学部専門科目

年次

※プログラム関連授業科目の履修に伴い

プログラム関連授業科目受講開始

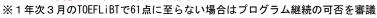
プログラム専用室での自主学習開始

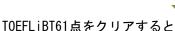
◆TOEIC受験(1年次7月)→550点以上目標

調整が必要となる場合があります。 (重複登録等)

◆T0EIC受験 (1年次12月)→600点以上目標







海外留学準備(学内及び留学先大学への手続き、渡航準備)



海外留学(2年次8月から3年次5月まで)



帰国:留学単位認定申請手続き

3 年 次

4 年

次

2 年

次



◆プログラム関連授業科目の履修

就職活動前

ネクストプログラム履修証明書の発行



卒業時

ネクストプログラム修了認定書の授与

対象学生

中国語を履修している学生の中で、参加を希望する学生に対して面接を実施し、学習状況や意欲から、留学前に留学可能なレベルに到達する見込みがあるかどうかを審査します。

授業科目

プログラム(中国語コース)に関わる開設学部、授業科目等については、「グローバル人材育成プログラム履修細則」別表 2 (中国語コース)を参照してください。

自主学習

ネイティブスピーカーとの対話レッスン等の自主学習を行い、HSK にチャレンジします。また、自主学習のためのプログラム専用室は、北4号館の3階(『4. 問い合わせ先・案内図』参照)にあります。

◆ HSK は中国政府公認の中国語検定試験です。

留 学

指定された海外の大学に原則として1年間留学し、指定の関連授業科目をグローバル人材育成 プログラムの授業科目として修得しなければなりません。

留学先 ◆上海大学、国立政治大学など、中国・台湾の協定校

奨 学 金

奨学金等については、下記の費用を一部補助します。

- (1) HSK受験料(2) 留学先の寮費(3) 海外留学保険料(4) 渡航費
- (5) 留学先大学の授業料

修了時

修了認定審査を通過した学生に対して、「ネクストプログラム修了認定証」を卒業時に授与し、特に優秀な成績を収めたと認められる学生には卒業時に学長表彰を行います。 また、就職活動などで、グローバル人材育成プログラムの履修をアピールしたい場合などは、3年次以降、「ネクストプログラム履修証明書」を発行することができます。

, ...

- ① 本プログラムで1年間留学することにより、4年間で卒業できない場合があります。 なお、本プログラムの留学を理由に休学することはできませんので、留学期間中は本学の授 業料が徴収されます。また、留学によって修業年限を越えた(留年した) 場合、修業年限 を越えた期間の授業料が徴収されますので御注意ください。
- ② 法学部・経済学部の学生が本プログラムに参加する場合、法学部・経済学部の特例措置 (★)を受けることができます。
- ③ 医学部の学生は本プログラムに参加することができません。

注意事項

- ④ 教育学部・創造工学部(工学部)・農学部の学生が、本プログラムの履修を希望する場合は、参加が可能かどうかを事前に所属学部の学務係に相談して下さい。
- ★ (法学部・経済学部の特例措置)

全学共通科目の外国語は、通常、初修外国語6単位と既修外国語4単位の組み合わせか、初修 外国語4単位と既修外国語6単位の組み合わせで10単位必要ですが、本プログラムに参加す る場合は、初修外国語(中国語)10単位のみで卒業単位と認定されます。ただし、本プログ ラムの履修を中途で取り止めた場合や、修了認定されなかった場合、この特例措置は適用され ません。

グローバル人材育成プログラム(中国語コース) 修了認定証授与までの流れ(モデルケース)

※2022年度入学者 入学後 新入生ガイダンス(ネクストプログラムガイダンス)に参加 ◆初修外国語で中国語を履修していることが受験の条件 履修希望者は 参加登録申請書を提出 履修手続 全学共通科目 年次 プログラム関連授業科目の履修手続き 学部専門科目 ※プログラム関連授業科目の履修に伴い 調整が必要となる場合があります。 (重複登録等) プログラム関連授業科目受講開始 プログラム専用室での自主学習開始 ◆HSK受験(2年次6月)→4級以上 ※HSKとは中国政府公認の中国語検定試験 ※2年次12月で4級に至らない場合はプログラム継続の 可否を審議 HSK 4 級をクリアすると 海外留学準備(学内及び留学先大学への手続き、渡航準備) 海外留学(3年前期から2月まで) 3 年次 帰国: 留学単位認定申請手続き 就職活動前 ネクストプログラム履修証明書の発行 ◆プログラム関連授業科目の履修 · 年次 卒業時 ネクストプログラム修了認定書の授与

※修了認定要件単位数26単位

グローバル人材育成プログラム(中国語コース) 修了認定証授与までの流れ(モデルケース)

※2021年度までの入学者 入学後 新入生ガイダンス(ネクストプログラムガイダンス)に参加 ◆初修外国語で中国語を履修していることが受験の条件 履修希望者は 参加登録申請書を提出 1年次 履修手続 全学共通科目 プログラム関連授業科目の履修手続き ※プログラム関連授業科目の履修に伴い 学部専門科目 調整が必要となる場合があります。(重複登録等 プログラム関連授業科目受講開始 プログラム専用室での自主学習開始 ◆HSK受験(2年次6月)→4級以上 ◆HSK受験(2年次12月)→5級以上 ※HSKとは中国政府公認の中国語検定試験 ※2年次6月で4級、2年次12月で5級に至らない場合は プログラム継続の可否を審議 HSK 5 級をクリアすると 海外留学準備(学内及び留学先大学への手続き、渡航準備) 3 海外留学(3年次8月から翌年7月まで) 年 次 帰国: 留学単位認定申請手続き ◆プログラム関連授業科目の履修 就職活動前 4 年 ネクストプログラム履修証明書の発行 卒業時 ネクストプログラム終了認定書の授与

- ※修了認定要件単位数28単位
- ※主題B-2「グローバル社会と異文化理解」の閉講に 伴い修了認定要件単位数は26単位に変更

(2) 防災士養成プログラム

対象学生

1年次に全学共通科目として防災士養成関連科目を開講しており、この科目を履修した学生は 防災士資格取得試験を受験することができます。防災士資格取得試験に合格した学生の中か ら、プログラム参加学生を募ります※。希望者多数の場合は学習意欲の高い学生を選抜しま す。(定員30名程度)

授業科目

防災士養成プログラムに関わる開設学部、授業科目等については、「防災士養成ブログラム履修細則」別表【第3条関係】を参照してください。

活 動

香川大学学生防災士クラブに入会し、学内外の防災活動にボランティアとして参加します。また、 被災地支援のボランティア活動に参加するなど、防災・減災活動のリーダーとなることを期待して います。

修了時

修了認定審査を通過した学生に対して、「ネクストプログラム修了認定証」を卒業時に授与し、特に優秀な成績を収めたと認められる学生には卒業時に学長表彰を行います。 また、就職活動などで、防災士養成プログラムの履修をアピールしたい場合などは、3年次以降、「ネクストプログラム履修証明書」を発行することができます。

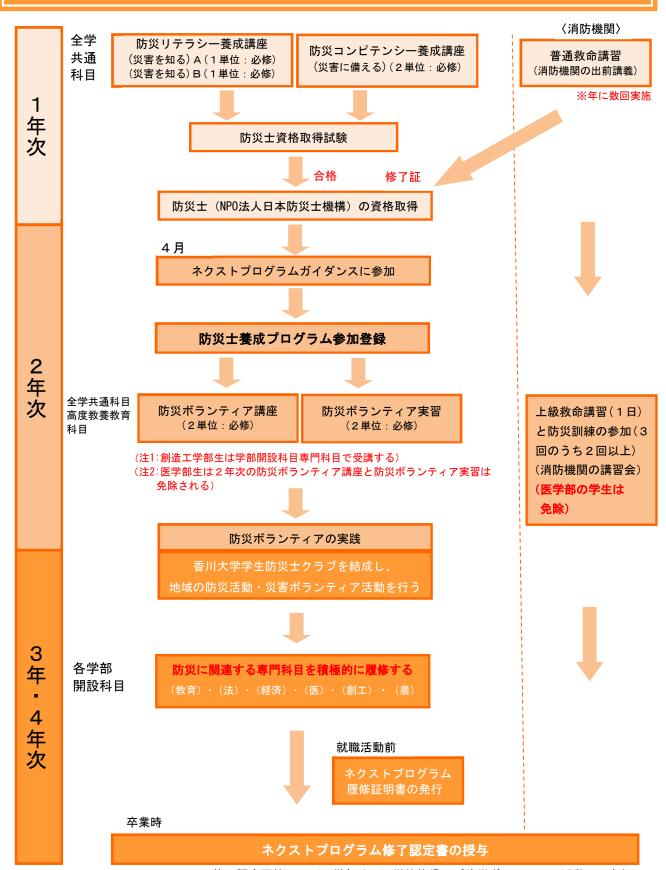
注意事項

2年次のはじめに防災士養成プログラム参加登録申請書を修学支援課へ提出する必要があります。 (3年次からの参加も可能です)

創造工学部の学部提供科目「防災ボランティア講座」と「防災ボランティア実習」について、 創造工学部以外の参加学生は、全学共通科目の高度教養教育科目として履修します。所属学部 の学部開設科目(自由科目)として履修することはできません。なお、創造工学部生は学部開 設科目専門科目として履修します。

※令和4年度は、コロナ禍の特例として防災士資格取得試験の合格の段階で参加登録申請書提出を認め、 仮の登録を行い、後日、防災士証(写)又は防災士認定登録申請証(写)の提出により正式な登録とします。

防災士養成プログラム <u>修了認定証授与までの流れ</u>(モデルケース)



※修了認定要件:8 (医学部は4) 単位修得及び防災ボランティア活動への参加

(3) 人間探求(文学作品熟読)プログラム

※人間探求(文学作品熟読)プログラムは 2019 年度から新規募集を行っていません。

対象学生	全学部の学生が参加できます。
授業科目	全学共通科目主題B-4「人間探求としての文学一作品読解のために一」その1 全学共通科目主題B-4「人間探求としての文学一作品読解のために一」その2
レポート	4年に進級した年度の9月までに推薦された文学作品の中から30冊を選択して読み、レポートを提出します。レポートは1冊につきA4用紙1枚、800 字から 1,200 字を目安とします。提出されたレポートに対し、推薦教員のコメントがフィードバックされます。
活動	大学図書館で学生自らが本を推薦するなどの活動を行うこともできます。
修了時	修了認定審査を通過した学生に対して、「ネクストプログラム修了認定証」を卒業時に 授与し、特に優秀な成績を収めたと認められる学生には卒業時に学長表彰を行います。 就職活動などで、人間探求 (文学作品熟読)プログラムの履修をアピールしたい場合な どは、3年次以降、「ネクストプログラム履修証明書」を発行することができます。

レポート作成・送信の流れ

- 1 ホームページに掲載されている推薦図書一覧から、自分の読みたい図書を1冊選ぶ。
- ② 図書館の中央館、医学部分館、創造工学部分館、農学部分館の「人間探求(文学作品熟読) プログラム」専用ブックトラックから図書を借り出す。
- ③ レポートを作成し、図書館にメール送信または持参する。 レポートはA4用紙1枚、800字~1,200字を目安とする。 レポート送信先 図書館【libkikaku-c@kagawa-u.ac.jp】
- ④ 後日、推薦した教員のコメントがメールで送信されてくる。

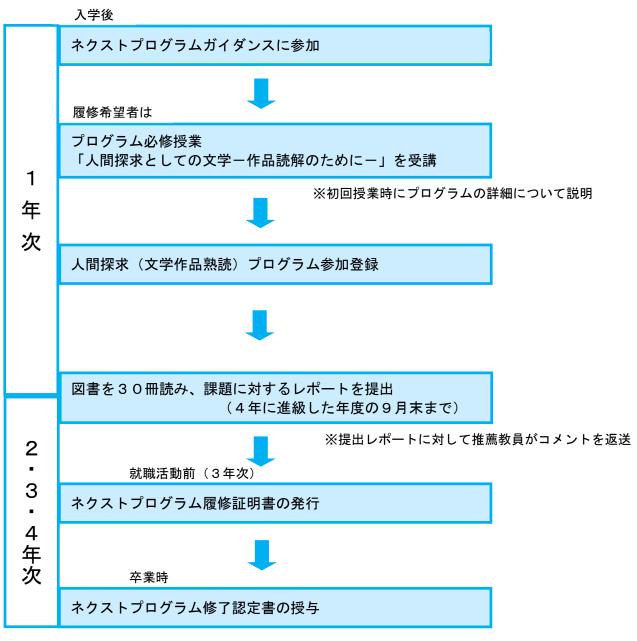
図書の返却について

他の学生の利用に支障をきたさないように、返却期日を厳守してください!

■ 推薦文やレポート課題等詳細については、香川大学ネクストプログラム人間探求プログラム推薦図書一覧 (香川大学ホームページ > 教育研究・産学官連携> 教育> 香川大学ネクストプログラム(特別教育プログラム) > 推薦図書一覧) https://www.kagawa-u.ac.jp/research/education/10373/13455/ をご覧ください。

人間探求(文学作品熟読)プログラム

※人間探求(文学作品熟読)プログラムは 2019 年度から新規募集を行っていません。



※修了認定要件:2単位(必修授業)修得及び30レポートの提出

(4) ヒューマニティーズ(人文学)プログラム

対象学生

全学部の学生が参加できます。プログラム参加前に修得した単位も修了要件に含むこと ができます。修了要件を満たせば、在学中にプログラムを修了することが可能です。

授業科目

ヒューマニティーズ(人文学)プログラムに関わる開設学部、授業科目等については、 「ヒューマニティーズ(人文学)プログラム履修細則」別表【第3条関係】を参照して ください。

履修の進め方

アドバイザー教員から履修指導を受けながら、履修モデルを選択し、履修モデルに沿 って授業科目を履修します。

課題研究の成果を全学共通科目高度教養科目「ヒューマニティーズプログラム課題研 究」(必修科目・2単位)の中で行われる発表会で発表します。

修了時

修了要件を満たした学生は、「ヒューマニティーズ(人文学)プログラム履修細則」の 「ヒューマニティーズ(人文学)プログラム修了認定申請書」様式2(第6条関係)を 修学支援課に提出します。「修了認定申請書」は年次に関わらずいつでも提出できま す。

修了要件は、プログラム科目を12単位以上修得していることと、「ヒューマニティー ズプログラム課題研究」の単位を修得していることです。

注意事項

修了要件単位数の計算は学生本人が行い、毎年度末に履修状況の報告を行います。 修了要件を満たしていても「修了認定申請書」を提出しなかった場合は、修了が認定 されませんので注意してください。

登録から修了までの流れ



履修モデルを提示し 履修モデルが決まれば 履修する授業科目につ いてアドバイスを行い ます。

3.6

-教員

修得した科目を確認しなが ら、履修指導を行います。 「ヒュー ズプロ グラム課題研究」の履修時 期についても併せて指導し ます。



プログラム専用科目である 「ヒューマニティーズプロ グラム課題研究」の担当し、 課題研究を指導します。

履修モデル 選択

学生

履修科目 決定

履修

課題研究

課題研究 発表

修了認定 由請

修了

芸術モデル

っ履修モデルを選択します。

- 哲学・倫理学モデル
- 歴史学モデル
- 言語・文学モデル
- ・地域研究モデル



コア科目

を決めます。修了が見 えてきたら「ヒュ・ ィーズプログラム 課題研究」を履修しま

プログラム課題研究」 の発表会で課題研究の

内容を発表します。

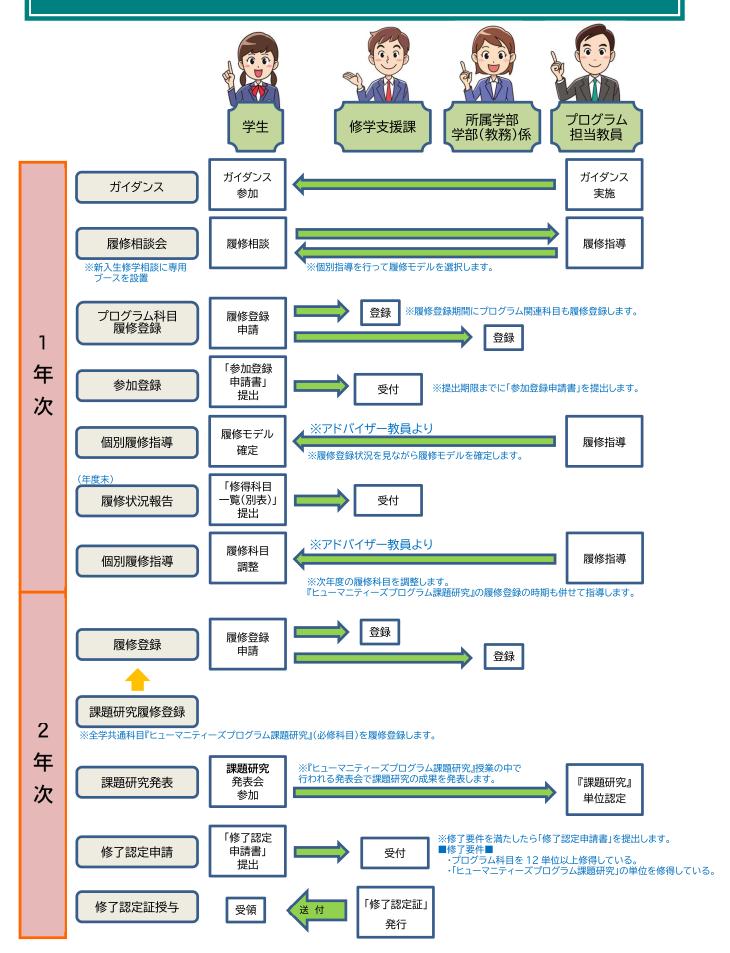


授業科目を履修します。 「ヒューマニティーズプログラム 課題研究」履修し、課題研究を行 います。



修了要件を満たしたら 「修了認定申請書」を提 出します。

履修モデルに沿って授業科目を履修します。 ※選択した履修モデル以外の授業科目を履修 することもできます。



(5) DRIイノベーター養成プログラム

対象学生

全学部の学生が参加できます。ただし、創造工学部の学生はIコース以外のコースには参加できません。なお、プログラム参加前に修得した単位も修了要件に含むことができます。修了要件を満たせば、在学中にプログラムを修了することが可能です。

履修の進め方

本手引きや大学教育基盤センターのホームページを見ながら、コースを選択し、DRIイノベーター養成プログラム対象科目を履修します。

課題研究の成果を全学共通科目高度教養科目「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」(必修科目・2単位)の中で行われる発表会で発表します。

授業科目

DRIイノベーター養成プログラムに関わる開設学部、授業科目等については、「DRIイノベーター養成プログラム履修細則」別表【第4条関係】を参照してください。

仮っ 吐

修了要件を満たした学生は、「DRIイノベーター養成プログラム履修細則」の「DRIイノベーター養成プログラム修了認定申請書」様式2(第7条関係)を修学支援課に提出します。「修了認定申請書」は年次に関わらずいつでも提出できます。

修了要件は、DRIイノベーター養成プログラム対象科目を12単位以上修得していることです。なお、12単位以上という修了要件には、①全学共通科目4単位以上、学部開設科目4単位以上、②所属コースの科目を6単位以上、③必修科目の「はじめて学ぶDRI」と「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」を修得していること、という3つの要件が含まれます。

※創造工学部創造工学科の造形・メディアデザインコース、防災・危機管理コース、情報システム・セキュリティコース及び情報通信コース学生については学士課程の卒業要件を備えることをDRIイノベーター養成プログラム・Iコースの修了要件とすることができます。(「DRIイノベーター養成プログラム履修細則」(修了要件)を参照)

注意事項

修了要件を満たしていても「修了認定申請書」を提出しなかった場合は、修了が認定されません。

登録から修了までの流れ

ネクストプログラム ガイダンス

新入生履修相談会 第1回参加登録

履修登録

第2回と第3回 参加登録 科目履修

課題研究 発表

「修了認定申請書」 提出

修了

※他学部開設科目の履修の仕方について

Webでの履修登録はできません。所属学部の窓口にて受講願を受け取り申請することで履修登録することができます。

手順は原則以下のとおりです。

- ① 所属学部の窓口で受講願を受け取ってください
- ② 自分が受講したい他学部開設科目の初回授業に出席してください
- ③ 初回授業終了後に、受講願に授業担当者の押印をもらってください
- ④ 押印をもらった受講願を所属学部の窓口に提出してください

※他学部開設科目の履修可能年次について

経済学部生は3年次以上、経済学部以外の学生は各科目の配当年次以上であれば(一部例外があるので別表 【第4条関係】で確認してください)、他学部開設科目を履修できます。

DRI イノベーター養成プログラム 修了認定証書授与までの流れ(モデルケース)

I 年次



ネクストプログラム ガイダンス(ビデオ)に 参加してください 新入生 履修相談会 第1回参加登録

新入生修学相談を行う 会場の全学共通科目ブース で履修相談を受け付けます プログラム主担当教員に 「参加登録申請書」を 提出してください

※コース確定



履修登録

全学共通科目、 学部開設科目を 履修登録してください

※必修科目 「はじめて学ぶ DRI」も 履修登録してください



第2回・第3回 参加登録

新入生履修相談会で 参加登録できなかった 登録希望者は、 「はじめて学ぶ DRI イ」 もしくは 「はじめて学ぶ DRI ロ」 第 | 回後、教員に 「参加登録申請書」を 提出してください ※コース確定



2年次以降



履修登録



課題研究発表



「修了認定申請書 提出



「修了認定証」が 交付されます

全学共通科目、 学部開設科目を 履修登録してください

※必修科目
「DRI イノベーター養成プログラム課題研究」も
履修登録してください

「DRI イノベーター養成 プログラム課題研究」の 授業の中で行われる 発表会でこれまでの 学びの成果を発表します

修了要件を満たしたら、 修学支援課に、「修了 認定申請書」を提出して ください





※第1回と第2回で参加登録できなった場合は、4月15日(金)までに修学支援課(大学会館2階)に「参加登録申請書」を提出してください。後期も参加登録可能です。第3回で参加登録できなかった場合は、10月14日(金)までに「参加登録申請書」を修学支援課に提出してください。

2つの修了要件について

【修了要件①】

DRIイノベーター養成プログラム履修細則の別表【第4条関係】に定める各コース(Dコース、Rコース、Iコース)の授業科目を12単位以上修得します。

- 12単位以上という修了要件には下記の3つの要件が含まれます。
 - ①全学共通科目4单位以上、学部開設科目4単位以上
 - ②所属コースの科目を6単位以上
- ③必修科目の「はじめて学ぶDRI」と「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」を修得 修了要件を満たしたら「DRIイノベーター養成プログラム修了認定申請書」を修学支援課に提出し ます。(「修了認定申請書」は年次に関わらずいつでも提出できます。)

修了認定された場合は修了認定書が授与されます。

修了要件を満たしていても「修了認定申請書」を提出しなかった場合は、修了が認定されません。

【修了要件②】

創造工学部創造工学科の造形・メディアデザインコース、防災・危機管理コース、情報システム・ セキュリティコース及び情報通信コース学生については、学士課程の卒業要件を備えることを DRIイノベーター養成プログラム・Iコースの修了要件とすることができます。

修了要件を満たした場合に修了認定の申請を行うかどうかについて、対象者に事前に確認します。(事前確認の方法については、メール等で修学支援課から連絡があります。)

申請者には卒業時に修了認定書が授与されます。

ただし、【修了要件①】により修了認定書が授与された場合は、【修了要件②】による修了認定 は申請できません。(事前申請は無効となります)



3. ネクストプログラム関係規程

◆香川大学ネクストプログラム規程◆

(趣旨)

第1条 香川大学ネクストプログラム(以下「ネクストプログラム」という。)に関する事項は、 香川大学学則(以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(目的)

第2条 ネクストプログラムは、学部における学位取得を目的とした教育課程(以下「学士課程」という。)に加えて特別の教育目的に関連する様々な分野を横断的かつ総合的に学ぶことにより、幅広い知識やそれらを組み合わせて考える力を身につけることを目的とする。

(履修者)

第3条 ネクストプログラムを履修することができる者は、学則第5条に規定する学部に在籍する 学生であって、ネクストプログラムを履修することにより学士課程の履修に支障を生じないと香川 大学ネクストプログラム運営委員会(以下「運営委員会」という。)が判断した者とする。

2 前項の規定にかかわらず所属学部の定めるところにより学業成績不良と判断された学生には、ネクストプログラムの履修を認めない。

(選考方法)

第4条 履修者の選考方法は、運営委員会が別に定める。

(決定)

第5条 履修者の決定は、運営委員会の議を経て、学長が行い、履修者の所属学部長へ通知する。

(ネクストプログラムの編成方針)

第6条 運営委員会は、次の各号に掲げる中から必要な授業科目を指定し、本学が開設する講習を合わせてネクストプログラムとして編成するものとする。ネクストプログラムの編成にあたっては、学生が体系的に学べるよう配慮するものとする。

- (1) ネクストプログラム独自の科目
- (2) ネクストプログラムに関わる学部の専門教育科目
- (3) 全学共通科目
- 2 前項の規定に基づき開講され又は指定された授業科目の単位は、履修者の所属学部が定めると ころにより学士課程の卒業要件単位数に含めることが出来る。

(履修制限)

第7条 設備その他の都合により、ネクストプログラムの履修人員を制限することがある。

(修了要件)

第8条 各ネクストプログラムの修了要件は、別に定める。

(修了認定)

第9条 学長は、修了要件を充足した者について、運営委員会の議を経て、修了を認定する。ただし、ヒューマニティーズ(人文学)プログラム及びDRIイノベーター養成プログラムについては、修了認定の申請をしなかった者に対しては、修了を認定しない。

2 前項の規定により修了認定された者には、修了認定証(様式1)を授与する。

(履修の取り消し)

第10条 学長は、履修者の学士課程又はネクストプログラムの両方又は一方の履修の成果が得られないと認めたとき、運営委員会の議を経て、履修資格を取り消すことができる。

2 前項にかかる履修資格の取り消しは、履修者の所属学部長へ通知する。

(履修の中止)

第11条 履修者は、やむを得ない理由によりネクストプログラムの履修を中止しようとするときは、予め所属学部指導教員又は学級担任等の承認を得て、履修中止申請書(様式2)を提出しなければならない。

2 前項にかかる履修中止の許可は、運営委員会の議を経て、学長が行い、履修者の所属学部長へ通知する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、ネクストプログラムに関する事項は、運営委員会が別に定める。

附則

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行により、香川大学ネクストプログラム規則(平成25年4月1日制定)は、廃 止する。
- 3 平成24年度以前に入学した学生の教育課程については、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この規程は、令和元年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。



第号

香川大学ネクストプログラム修了認定証

学部学科等

氏名

生年月日

本学の教育課程において、 ネクストプログラム・

○○○○○プログラムを修了したことを認定する

令和 年 月 日

香川大学長





ネクストプログラム履修中止申請書

令和 年 月 日

令和 年 月 日

印

香川大学長 殿

年度入学 学部・学科・課程

学籍番号

氏 名

メールアドレス

電話番号

私は、ネクストプログラム下記コースの履修を中止したいので申請いたします。

記

ネグストプログ プムコース名	
履修中止理由の詳細	

指導教員又は学級担任等

◆グローバル人材育成プログラム履修細則◆

(趣旨)

第1条 香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラム(以下「GEプログラム」という。)に関する事項は、香川大学学則及び香川大学ネクストプログラム規程に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

(修了要件)

第2条 GEプログラムは選択とし、学士課程の卒業要件を備えるとともに、次条に定める授業科目を26単位以上修得することを修了要件とする。

(授業科目)

第3条 GEプログラムに関わる開設学部、授業科目及び履修方法等は、別表1 (英語コース) 及び別表2 (中国語コース) のとおりとする。ただし、年度により授業科目の一部を開講しないことがある。

(登録)

第4条 GEプログラムへ参加を希望する者は、参加登録申請書(様式1)を学長へ提出しなければならない。

(履修継続条件)

第5条 外国語能力試験の成績等に基づく履修継続条件は、グローバル人材育成プログラム実施部会(以下「実施部会」という。)が別に定める。

(留学)

第6条 GEプログラムの参加者は、GEプログラム参加者を対象とする選抜試験(以下「選抜試験」という。)に合格し、指定された海外の大学に原則として1年間(英語コースについては半年から1年の間)留学し、指定の関連授業科目をGEプログラムの授業科目として修得しなければならない。

2 GEプログラムに関わる選抜試験、留学、指定の海外の大学及び関連授業科目の詳細については、別に定める。

(卒業要件単位への算入)

第7条 別表の授業科目(留学特別科目含む。)は、所属する学部規程の定める範囲において、所属学部の卒業要件単位に算入することができる。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、GEプログラムの履修に関し必要な事項は、実施部会が別に定める。

附則

- 1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この細則の施行に伴い、香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラム履修規程(平成25年4月1日制定)は、廃止する。

附則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

附則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和3年11月26日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

附則

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和4年11月8日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

別表 1 (英語コース)

開設学部等	授業科目	必 修・選 択別	単位数	修了 要件 単位数	科目区分	
全	Communicative English I	必	2		外国語科目	
学共	Communicative English II	必	2		令和3年度までコミュニケーション 目(外国語)	
全学共通科目	Communicative EnglishⅢ	必	1			
目	Communicative EnglishIV	必	1	1 0		
	Intensive English I	必	2			
	Intensive EnglishⅡ	必	2			
+11	英作文	選	2		教育学部開設科目	
教育	英会話	選	2			
学	異文化理解	選	2			
部	異文化間コミュニケーション論	選	2			
	英語演習 I (注 1)	選	2			
	英語演習Ⅱ(注1)	選	2			
	英語演習Ⅲ(注1)	選	2			
	英語演習Ⅳ(注 1)	選	2			
	国際社会論	選	2			
	多文化共生論	選	2			
	憲法入門	選	2		法学部開設科目	
法	民法入門	選	2	8以上(注2)		
学	刑事法入門	選	2	(/= - /		
部	政治学入門	選	2			
чь	国際関係論	選	2			
	外書講読(英語) * ただし令和4年度は休講	選	2			
	(特)実務英語 I	選	2			
	(特)実務英語Ⅱ	選	2			
4 ∀	外国語演習I	選	2		経済学部開設科目	
経 済	外国語演習Ⅱ	選	2			
学	ビジネス英語 I	選	2			
部	ビジネス英語Ⅱ	選	2			
	(特)海外研修(アメリカ)	選	2			
	留学特別科目※	必		8以上	GEプログラム特別科目	
	修了要件単位数合計			26以上		

⁽注1) 令和元年度以降開講しない

注) ★印は、ネクストプログラムのために新たに開設された科目

⁽注2) 平成30年度以前の入学者は6単位

別表2(中国語コース)

開設 学部等	授業科目	必修・ 選択別	単位数	修了 要件 単位数	科目区分	
全	中国語 I	必	2		外国語科目 令和3年度までコミュニケーション科	
全学共通科目	中国語速修 I	必	1		目(外国語)	
科	中国語速修Ⅱ	必	2			
	中国語速修Ⅲ	必	1			
	中国語上級「聴解」(注1)	選	1	10		
	中国語上級「読解」(注2)	選	1	以上		
	中国語上級「写作」(注2)	選	1			
	中国語応用演習 I	必	1			
	中国語応用演習 Ⅱ	必	1			
	中国語応用演習Ⅲ	必	1			
教育	国際社会論	選	2		教育学部開設科目法学部開設科目	
教 育 学 部	多文化共生論	選	2			
	憲法入門	選	2			
法	民法入門	選	2			
学	刑事法入門	選	2			
部	政治学入門	選	2			
	国際関係論	選	2			
経	外国語演習 I (中国語)(注3)	選	2	8以上	経済学部開設科目	
済	外国語演習Ⅱ(中国語)(注4)(注5)	選	2			
学	アジア社会論	選	2			
部	アジア文化論	選	2			
	アジア経済論	選	2			
	(特)中国文化論(注5)	選	2			
	(特)海外研修(中国)(注6)(注7)	必	2			
	(特)海外研修(台湾)(注6)(注8)	必必	2	ONE	CEつ°ロカ°ラル株무미+11 모	
	留学特別科目※ 	8以上	GEプログラム特別科目			
修了要件単位数合計 26以上 26以上 26以上 ※学生が海外の大学において修得した授業科目のうちGEプログラムに関連すると認められる授業科目						

- (注1) 令和5年度以降開講しない (注2) 令和6年度以降開講しない
- (注3) 令和3年度以前の入学生は、令和4年度までに履修すること
- (注4) 平成30年度入学生は、修了要件に含まない
- (注5) 令和3年度以降開講しない
- (注6) 平成30年度以前の入学者は選択科目

2年次から留学するGEプログラムの参加者は、海外研修(中国)及び海外研修(台湾)のいずれか一方の

- 履修を免除される。ただし、免除された単位数は、選択科目により補充しなければならない。 (注7) 令和3年度開講科目「(特) アジアの経済・社会」は「(特) 海外研修(中国)」に読み替える
- (注8) 令和4年度開講科目「(特) 東アジア事情」は「(特) 海外研修(台湾)」に読み替える

注) ★印は、ネクストプログラムのために新たに開設された科目

 \star \star \star

 \star \star

グローバル人材育成プログラム参加登録申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学 学部・学科・課程 学籍番号 氏 名 メールアドレス 電話番号

私は、グローバル人材育成プログラム下記コースの参加登録を申請します。

記

コース名	希望するコース名にチェックすること。
英語コース	
中国語コース	

◆防災士養成プログラム履修細則◆

(趣旨)

第1条 香川大学ネクストプログラム・防災士養成プログラム(以下「防災士養成プログラム」という。)に関する事項は、香川大学学則及び香川大学ネクストプログラム規程に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

(修了要件)

第2条 防災士養成プログラムは選択とし、学士課程の卒業要件を備えるとともに、次条に定める授業科目を8単位以上修得し、かつ香川大学学生防災士クラブにおける防災ボランティア活動への参加を修了要件とする。

(授業科目)

第3条 防災士養成プログラムに関わる開設学部、授業科目及び履修方法等は、別表のとおりとする。ただし、 年度により授業科目の一部を開講しないことがある。

(登録)

第4条 防災士養成プログラムへの参加及び香川大学学生防災士クラブの加入を希望する者は、参加登録申請書 (様式1)に防災士証(写)又は防災士認証登録申請書(写)を添えて、学長へ提出しなければならない。

(雑則)

第5条 この細則に定めるもののほか、防災士養成プログラムの履修に関し必要な事項は、防災士養成プログラム実施部会が別に定める。

附則

- 1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この細則の施行に伴い、香川大学ネクストプログラム・防災士養成プログラム履修規程(平成25年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

附則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

別表【第3条関係】

開 設学 部等	授業科目	必修・ 選択別	単位数	修了 要件 単位数	科目区分	備考
全学	防災リテラシー養成講座(災害を知る)その1 (注1)	必	1		特別主題(地域) 令和3年度まで主	
全学共通科目	防災リテラシー養成講座(災害を知る)その2 (注1)	必	1		題科目(主題C)	
	防災リテラシー養成講座(災害を知る)A	必	1			
	防災リテラシー養成講座(災害を知る)B	必	1			
	防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)	必	2			
	防災ボランティア講座※1(注1)	必(選)	2	8(4)	高度教養教育科 目 · 広範教養教	※1,※2医学部生は 選択科目として受講
	防災ボランティア実習※2(注1)	必(選)	2	0(4)	育科目	することができる。
創造工学部	防災ボランティア講座※3	必(選)	2		全学共通科目 高度教養教育科 目 令和3年度まで	創造工学部生は学部 開設科目専門科目で 受講 ※3,※4医学部生
字	防災ボランティア実習※ 4	必(選)	2		全度 + 通卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷 卷	は選択科目として受講することができる
	人間環境学Ⅰ	選	2		教育学部開設科目	
教	人間環境学Ⅱ	選	2			
育	地学Ⅱ	選	2			
学	学習心理学	選	2			
部	人文地理学	選	2			
""	社会学 I	選	2			
1	環境社会学	選	2			
法学部	地方自治論	選	2		法学部開設科目	
	地域活性化論(注2)	選	2		経済学部開設科目	
経済学部	まちづくり論	選	2			
学	保険システム論	選	2			
部	エコツーリズム論(注2)	選	2			
	公衆衛生学(医学科必修)	選	2		医学部開設科目	他学部生の受講は認
医	法医学(医学科必修)	選	2			めない。
医学部		選	1			
		選	1			
-	公衆衛生学(看護学科必修)		-			
-	公衆衛生看護学概論(看護学科必修)(注3)	選	2			
-	地域看護学概論(看護学科必修)	選	2			
	救急・災害看護(看護学科必修)	選	1			
	臨床心理学概論(臨床心理学科必修)	選	2		創造工学部開設	T-100 F-11777
創		選 選	2 1		周垣工子市開設 科目	平成30年度以降の 入学生履修科目
造	注来広院	選	1			
創造工学部	災害行動と被災者支援	選	2			
部	災害・危機管理と法	選	1			
	復旧・復興デザイン	選	2			
	災害調査法	選	2			
	事業継続マネジメント	選	2			

農	環境科学	選	2			「環境科学」については、他学 部生の受講は認めない。
農学部	生物環境保全学	選	2			即主の文語は認めない。
部	農業気象学	選	2			
	修了要件単位数合計			8 (4) 以上		
	必修科目を全て含め、8単位以上修得すること。 ただし、医学部生は必修科目を全て含め、4単位以上を修得すること。					

- (注1) 平成30年度まで開講
- (注2) 平成30年度以降入学者から履修可
- (注3) 令和3年度まで開講

注)★印は、ネクストプログラムのために新たに開設された科目

防災士養成プログラム参加登録申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部•学科•課程

学籍番号

氏名

メールアドレス

電話番号

私は、防災士養成プログラムの参加登録及び香川大学学生防災士クラブの加入を申請します。

[添付資料]

1	防災士証(写)	
2	防災士認証登録申請書(写)	

※今回添付した1又は2の書類について、チェックすること。

※令和4年度は、コロナ禍の特例として防災 士資格取得試験の合格の段階で参加登録申請 提出を認め、仮の登録を行い、後日、防災士 証(写)又は防災士認定登録申請証(写)の提出 により正式な登録とする

◆人間探求(文学作品熟読)プログラム履修細則◆

(趣旨)

第1条 香川大学ネクストプログラム・人間探求(文学作品熟読)プログラム(以下「人間探求プログラム」という。)に関する事項は、香川大学学則及び香川大学ネクストプログラム規程に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

(修了要件)

第2条 人間探求プログラムは選択とし、学士課程の卒業要件を備えるとともに、次条に定める授業科目2単位を修得し、かつ第5条に規定するレポートの提出を修了要件とする。

(授業科目)

第3条 人間探求プログラムに関わる授業科目及び履修方法等は、別表のとおりとする。

(登録)

第4条 人間探求プログラムへ参加を希望する者は、参加登録申請書(様式1)を学長へ提出しなければならない。

(レポートの提出)

第5条人間探求プログラムの参加者は、4年に進級した年度の9月までに別に定める教員推薦図書の中から30冊以上選び、1冊につき1本のレポートを人間探求(文学作品熟読)プログラム実施部会(以下「実施部会」という。)へ提出しなければならない。

(雑則)

第6条 この細則に定めるもののほか、人間探求プログラムの履修に関し必要な事項は、実施部会が別に定める。

附則

- 1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この細則の施行に伴い、香川大学ネクストプログラム・人間探求(文学作品熟読)プログラム履修規程(平成25年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

附則

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

別表【第3条関係】

開設学部等	授 業 科 目	必修・ 選択別	単位数	科目区分	
	人間探求としての文学 一作品読解のためにー(注1)	必修	2	主題科目(主題B)	
全学共通科目	人間探求としての文学 ー作品読解のためにー その1(注2)	必修	1		
	人間探求としての文学 一作品読解のためにー その2(注2)	必修	1		*
修了要件単位数合計					

- (注1) 平成28年度入学者まで履修可
- (注2) 平成30年度入学者まで履修可

注) ★印は、ネクストプログラムのために新たに開設された科目

人間探求(文学作品熟読)プログラム参加登録申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部·学科·課程

学籍番号

氏名

メールアドレス

電話番号

私は、人間探求(文学作品熟読)プログラムの参加登録を申請します。

◆ヒューマニティーズ(人文学)プログラム履修細則 ◆

(趣旨)

第1条 香川大学ネクストプログラム・ヒューマニティーズ(人文学)プログラム(以下「ヒューマニティーズ プログラム」という。)に関する事項は、香川大学学則及び香川大学ネクストプログラム規程に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

(修了要件)

第2条 ヒューマニティーズプログラムは、次条に定める授業科目を12単位以上修得し、かつ、第4条に 定める課題研究の認定を受けることを修了要件とする。

(授業科目)

第3条 ヒューマニティーズプログラムに関わる開設学部、授業科目及び履修方法等は、別表のとおりとする。ただし、年度により授業科目の一部を開講しないことがある。

(課題研究)

第4条 ヒューマニティーズプログラムの参加者は、ヒューマニティーズプログラム専用科目「ヒューマニティーズ課題研究」の修得をもって、課題研究の認定を受ける。

(登録)

第5条 ヒューマニティーズプログラムへの参加を希望する者は、参加登録申請書(様式 1)を学長へ提出しなければならない。

(修了認定申請)

第6条 ヒューマニティーズプログラムの修了認定を申請する者は、修了認定申請書(様式2)を学長へ提出しなければならない。

(卒業要件単位への算入)

第7条 別表の授業科目は、所属する学部規程の定める範囲において、所属学部の卒業要件単位に算入することができる。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、ヒューマニティーズプログラムの履修に関し必要な事項は、ヒューマニティーズプログラム実施部会が別に定める。

附則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

附則

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

別表【第3条関係】

	【 男 3宋 関 悕 】				
開設学部等	授 業 科 目	必修・ 選択別	単位数	修了 要件 単位数	科目区分
全学	四国の歴史と文化 その1 歴史編	選	1		特別主題(地域) 令和3年度まで主題科目(主題C)
, 共	書物との出会い―学問することの喜び	選	2		学問基礎科目
通	哲学	選	各2		
科	論理学	選	各2	1	
	倫理学	選	各2	1	
	歴史学	選	各2		
	芸術	選	各2		
	社会学	選	各2		
	文学	選	各2		
	言語学	選	2		
	地理学	選	各2		
	Plastics, the environment and human society	選	2		高度教養教育科目
	西洋古典語(注1)	選	各1		高度教養教育科目 令和3年度まで高度教養教育科目・
	ヒューマニティーズ課題研究(注2)	必	2		広範教養教育科目
	Academic English II	選	1		外国語科目 令和3年度までコミュニケーション科目
	ドイツ語 Ⅲ	選	1		(外国語)
	ドイツ語会話皿	選	1		
	フランス語皿	選	1	1	
	フランス語会話Ⅲ	選	1		
教	日本古典文学史(注7)	選	2	1	教育学部開設科目
育	日本古典文学講読 I (注7)	選	1		
学部	日本古典文学講読 II (注7)	選	1	1	
ПЬ	日本古典文学演習	選	1	1	
	中国古典学講読 I (注7)	選	1	-	
	哲学 I *ただし令和4年度は休講	選	2	-	
	哲学Ⅱ	選	2	1	
	人間存在論(注3)(注8)	選	2	1	
	倫理学 I	選	2		
	倫理学Ⅱ *ただし令和4年度は休講	選	2		
	生命と倫理 *ただし令和4年度は休講	選	2		
	人間環境学Ⅱ	選	2		
	西洋文化史(注4)	選	2		
	西洋史学(注4)	選	2		
	西洋史学 I (注6)	選	2		
	人文地理学	選	2		
	自然地理学*ただし令和4年度は休講	選	2		
	地誌学	選	2		

ſ		-	
	歴史環境論*ただし令和4年度は休講	選	2
	比較社会経済史論 * ただし令和4年度は休講	選	2
	日本史学 I * ただし令和4年度は休講	選	2
	日本史学Ⅱ	選	2
	日本社会史論	選	2
	古文書学概論	選	2
	日本近代文学史	選	2
	日本近代文学講義	選	2
	日本近代文学演習 Ⅱ	選	2
	英語圏文学概論	選	2
	美術史 I (注3)*ただし令和4年度は休講	選	2
	美術史(注5)*ただし令和4年度は休講	選	2
	美術理論	選	2
	音楽史	選	2
	造形基礎(注5)	選	2
	造形基礎 I (注3)	選	1
	造形基礎Ⅱ(注3)	選	1
	絵画IA	選	1
	絵画IB	選	1
	書鑑賞論	選	2
İ	書論 *ただし令和4年度は休講	選	2
	異文化間コミュニケーション論	選	2
	異文化理解	選	2
法	法思想史	選	2
学	アジア・太平洋社会論	選	2
部	平和学	選	2
経	ヨーロッパ文化論	選	2
済	ヨーロッパ社会論 * ただし令和4年度は休講	選	2
学	社会調査法	選	2
部	国際社会学	選	2
	文化人類学	選	2
	異文化間コミュニケーション論	選	2
	比較近代化論(注8)	選	2
	経営史	選	2
	経済史入門	選	2
	日本社会経済史	選	2
	企業倫理	選	2
	外国語演習 I (ドイツ語)	選	2
	外国語演習 I (フランス語)	選	2
	外国語演習Ⅱ(ドイツ語)	選	2
	外国語演習 Ⅱ (フランス語) * ただし令和4年度は休講	選	2
	(特)海外研修(ドイツ)*ただし令和4年度は開講未定	選	2
	(特)海外研修(フランス)*ただL令和4年度は開講未定	選	2
医学部	生命倫理学(注7)	選	1
			27

法学部開設和	4目		
経済学部開調	设科日		
12013 81703	2111		

創	創造工学倫理	選	1		創造工学部開設科目
創造工学部	地域とアート	選	1		
部	デザイン概論	選	1		
	革新デザイン史	選	1		
農学部	応用生物科学領域の倫理	選	2		農学部開設科目
	修了要件単位数合計			12 以上	

- (注1)ラテン語初歩 I、ラテン語初歩 I、ギリシア語初歩 I、ギリシア語初歩 I
- (注2)ヒューマニティーズプログラム専用科目
- (注3)平成29年度以前入学者まで履修可
- (注4)平成30年度以前入学者まで履修可
- (注5)平成30年度以降入学者から履修可
- (注6)令和元年度以降入学者から履修可
- (注7) 令和元年度に参加登録した学生についても、プログラム修了要件単位に算入可
- (注8)令和4年度以降開講しない

ヒューマニティーズ(人文学)プログラム参加登録申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学 学部・学科・課程 学籍番号 氏 名 メールアドレス

私は、ヒューマニティーズ(人文学)プログラムの参加登録を申請します。

電話番号

ヒューマニティーズ(人文学)プログラム修了認定申請書

令和 年 月 日

Н

香川大学長 殿

年度入学

学部・学科・課程 学籍番号 氏 名 メールアドレス 電話番号

私は、ヒューマニティーズ(人文学)プログラムについて、別添のとおり単位を修 得したので、修了の認定を申請します。

[添付書類]

別表【第3条関係】

※単位を修得した授業科目名に蛍光ペン等で印を付けること。

◆香川大学ネクストプログラム・DRIイノベーター養成プログラム履修細則◆

(趣旨)

第1条 香川大学ネクストプログラム・DRIイノベーター養成プログラム(以下「DRIイノベーター養成プログラム」という。)に関する事項は、香川大学学則及び香川大学ネクストプログラム規程に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

(コース)

第2条 DRIイノベーター養成プログラムに、Dコース、Rコース及びIコースを置く。

(修了要件)

第3条 DRIイノベーター養成プログラムは、次条に定める授業科目を12単位以上修得し、かつ、第5条に定める課題研究の認定を受けることを修了要件とする。

2 前項の規定にかかわらず、創造工学部創造工学科の造形・メディアデザインコース、防災・危機管理コース、情報システム・ セキュリティコース及び情報通信コース学生については学士課程の卒業要件を備えることをDRIイノベーター養成プログラム・Iコースの修了要件とすることができる。

(授業科目)

第4条 DRIイノベーター養成プログラムに関わる開設学部、授業科目及び履修方法等は、別表のとおりとする。ただし、年度により授業科目の一部を開講しないことがある。

(課題研究)

第5条 DRIイノベーター養成プログラムの参加者は、DRIイノベーター養成プログラム専用科目「DRIイノベーター養成プログラム課題研究」の修得をもって、課題研究の認定を受ける。

(登録)

第6条 DRIイノベーター養成プログラムへの参加を希望する者は、参加登録申請書(様式1)を学長へ提出しなければならない。

(修了認定申請)

第7条 DRIイノベーター養成プログラムの修了認定を申請する者は、修了認定申請書(様式2)を学長へ提出しなければならない。

(卒業要件単位への算入)

第8条 別表の授業科目は、所属する学部規程の定める範囲において、所属学部の卒業要件単位に算入する ことができる。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、DRIイノベーター養成プログラムの履修に関し必要な事項は、DRIイノベーター養成プログラム実施部会が別に定める。

附則

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和4年3月2日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

附則

この細則は、令和4年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和4年6月1日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

別表【第4条関係】

Dコース

開設学部等	授業科目	単位 数	必修科目	コース 科目	履修可能 ない 他コース 科目	修了 要件 単位 数	科目区分									
	はじめて学ぶ DRI	1	0	_	_		主題 令和3年度まで主									
	差別とマイノリティ	1	_	0	_		題科目(主題B)									
	マイノリティのライフヒストリー	1	_	0	_											
	社会デザインとマイノリティ問題	1	_	0	_											
	人を動かすロジカルコミュニケーション	1	_	0	_											
	知プラ e 科目 高度情報化社会の歩き方	1	_	_	0											
	企業と社会の関係 A	1	_	0	_											
	企業と社会の関係B	1	_	0	_											
	くらしと金融(注5)	1	_	0	_											
	幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育ち	1	_	0	_	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上						
	プロジェクトさぬき	1	_	0	_											
	国際協力論 A	1	_	0	_											
	国際協力論 B	1	_	0	_											
	サーバント・リーダー養成入門 I	1	_	0	_											
全	光通信に関わるセキュリティ技術(注5)	1	_	0	_											
学共	加工食品の現状と今後の展望(注2)	1	_	0	_		-									
通	微生物が関わる生活環境 (注2)	1	_	0	_											
科目	発達障害当事者研究の意義 I (注2)	1	_	0	_			-	-							
	文系学生のための人体解剖学(注2)	1	_	0	_											
	心と体の健康	1	_	0	_											
	生命保険を考える	1	_	0	_											
	日本の歴史と現代社会(注2)	1	_	0	_											
	経済学の歴史(注2)	1	_	0	_											
	古典で学ぶ経済学(注2)	1	_	0	_											
	心と身体の関係と医療	1	_	0	_											
	人間と健康を考える生理学(注2)	1	_	0	_											
	ケアリングと健康(注5)	1	_	0	_											
	子どもの視座から教育を考える	1	_	0	_											
	社会と金融(注2)	1	_	0	_											
	Leading Edge Issues in Kagawa University	1	_	0	_											
	海外体験型異文化コミュニケーションI	1	_	0	_											
	食品加工と食生活(注2)	1	_	0	_											

心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-(注 2)	1	-	0	_
心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-A	1	1	0	_
心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-B	1	-	0	_
学習環境の現在と未来	1	-	0	_
世界の言語と文化(注3)(注4)	1	-	0	_
決算書のしくみ(注5)	1	ı	0	_
会計情報の持つ意味(注5)	1	1	0	_
組織経営と会計(注5)	1	-	0	_
ヒューマンコミュニケーション	1	-	0	_
教養としての中国古代帝王伝説	1	-	0	_
光通信ネットワークの科学(注3)(注5)	1	-	0	_
こころとからだの科学(注3)	1	-	0	_
森林生態系の機能(注5)	1	-	0	_
機能性食品と健康	1	ı	0	_
脳とストレス	1	-	0	_
医学にかかわる化学	1	-	0	_
脳と体の健康について	1	-	0	_
栄養学のすすめ	1	-	0	_
名画を読む-美術史入門-(注6)	1	-	0	_
教養としての書道実技(注6)	1	-	0	_
現代の美術表現	1	-	0	_
SDGs をテーマとした問題解決学習	1	-	0	_
戦後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩 壊まで	1	ı	0	_
戦後の日本経済ーパブル発生から平成の終わり まで	1	1	0	_
株式・債券の仕組み	1	1	0	_
市場と感情の科学	1	ı	0	_
IT サービス概論(基礎)	1	1	0	_
IT サービス概論(応用)	1	1	0	_
身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注 6)	1	1	0	_
ものの科学(注6)	1	_	0	_
環境問題を科学の視点で考える(注6)	1	1	0	_
森林生態学の基礎	1	ı	0	_
植物バイオテクノロジーの展開	1	_	0	
がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注6)	1	ı	0	_
若年層の疾病と健康管理 A (注6)	1	_	0	_
若年層の疾病と健康管理B(注6)	1	_	0	
情報生物学と疾患遺伝の基礎 (注6)	1	-	0	_

	瀬戸内海の環境と保全(注6)	1	_	0	_		
	防災リテラシー養成講座(災害を知る)A	1	_	_	0		特別主題(地域) 令和3年度まで主
	防災リテラシー養成講座(災害を知る)B	1	_	-	0		題科目(主題 C)
	防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)	2	_	-	0		
	主題 C - 実践型科目	1又 は2	_	0	_		
	特別主題(地域)-実践型科目	1又 は2	_	0	_		
	地域課題発見・解決のための経済分析	1	_	0	_		特別主題(数理・ DS)
	情報科学	2	_	_	0		学問基礎科目
	DRI イノベーター養成プログラム課題研究 (注 1)	2	0	-	-		高度教養教育科 目 令和3年度まで高 度教養教育科目・ 広範教養教育科 目
	経済政策	2	_	0	_		経済学部開設科 目
	地域活性化論	2	-	0	-		
経	エコツーリズム論	2	_	0	_		
済学	まちづくり論	2	-	0	-		
部	社会政策 A	2	-	ı	0		
	社会政策 B	2	_	ı	0		
	経済統計	2	_	-	0	4以上	
創	地域とアート	1	_	0	_	481	創造工学部開設 科目
	インタラクションデザイン	1	_	0	_		
造	色彩学	1	_	0	_		
I	マルチメディアクリエイティブ入門	1	_	0	_		
学	デザインの潮流	2	_	0	-		
部	映像・画像・音声処理技術概論	1	_	-	0		
	地域社会とコンテンツ	1	_	ı	0		
	修了要件単位数合計		3	6 以上	(3)	12 以上	

- (注1)DRIイノベーター養成プログラム専用科目
- (注2)令和2年度まで開講
- (注3)令和3年度開講分よりプログラム対象科目
- (注4)令和3年度まで、主題 B として開講・プログラム対象科目
- (注5)令和3年度まで開講
- (注6)令和4年度開講分よりプログラム対象科目
- (注7)履修可能な他コース科目は()内の単位数を上限として修了要件単位数の単位として認定する。

Rコース

開設学部等	授業科目	単位 数 数	必修 科目	コース科目	履修可能な 他コース科 目	修了 要件 単位数	科目区分	
	はじめて学ぶ DRI	1	0	_	_		主題 令和3年度まで主	
	差別とマイノリティ	1	_	_	0		題科目(主題 B)	
	マイノリティのライフヒストリー	1	_	_	0			
	社会デザインとマイノリティ問題	1	_	_	0			
	人を動かすロジカルコミュニケーション	1	_	0	_			
	知プラ e 科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理	1	_	0	_			
	知プラ e 科目 レジリエントな社会の構築とコン ピューターシミュレーション	1	_	0	_			
	知プラ e 科目 災害とデータサイエンス	1	_	0	_			
	知プラ e 科目 高度情報化社会の歩き方	1	_	_	0			
	企業と社会の関係 A	1	_	_	0			
	企業と社会の関係 B	1	_	_	0			
	くらしと金融(注5)	1	_	_	0			
	幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育ち	1	_	_	0			
全	プロジェクトさぬき	1	_	_	0			
学	国際協力論 A	1	_	_	0			
共	国際協力論 B	1	_	_	0			
通	サーバント・リーダー養成入門 I	1	_	_	0	4以上		
~ 科	光通信に関わるセキュリティ技術(注5)	1	_	_	0			
	加工食品の現状と今後の展望(注2)(注8)	1	_	_	0			
目	微生物が関わる生活環境(注2) (注8)	1	_	_	0			
	発達障害当事者研究の意義 I (注2) (注8)	1	_	_	0			
	文系学生のための人体解剖学(注2)(注8)	1	_	_	0			
	心と体の健康(注8)	1	_	_	0			
	生命保険を考える(注8)	1	_	_	0			
	日本の歴史と現代社会(注2) (注8)	1	_	_	0			
	経済学の歴史(注2)(注8)	1	_	_	0			
	古典で学ぶ経済学(注2)(注8)	1	_	-	0			
	心と身体の関係と医療(注8)	1	_	_	0			
	人間と健康を考える生理学(注2)(注8)	1	_	_	0			
	ケアリングと健康(注5)(注8)	1	_	_	0			
	子どもの視座から教育を考える(注8)	1	_	_	0			
	社会と金融(注2)(注8)	1	_	_	0			
	Leading Edge Issues in Kagawa University (注 8)	1	_	_	0			

食品加工と食生活 (注2) (注8)	海外体験型異文化コミュニケーション I (注8)	1	_	_	0
2) (注音)	食品加工と食生活(注2)(注8)	1	_	_	0
8)		1	_	_	0
心の健康と援助 - 臨床心理学の観点から-B (注		1	_	_	0
世界の責語と文化(注3) (注4) (注8) 1 O 世界の責語と文化(注3) (注4) (注8) 1 O 決算書のしくみ(注5) (注8) 1 O 組織経営と会計(注5) (注8) 1 O 組織経営と会計(注5) (注8) 1 O 整差としての中国古代帝王伝説(注8) 1 O ※養としての中国古代帝王伝説(注8) 1 O ※養としての中国古代帝王伝説(注8) 1 O 森林生態系の機能(注5) (注8) 1 O 森林生態系の機能(注5) (注8) 1 O 機能性食品と健康(注8) 1 O 歴とストレス(注8) 1 O 医学にかかわる化学(注8) 1 O 医学にかかわる化学(注8) 1 O 版と体の健康について(注8) 1 O 素を養生のすすめ(注8) 1 O 数差としての書道実技(注6) 1 O 教養としての書道実技(注6) 1 O 戦後の日本経済一状ブル発生から平成の終わりま 1 O 職後の日本経済一状ブル発生から平成の終わりま 1 O 「で 株式・債券の仕組み 1 O 株式・債券の仕組み 1 O 市場と感情の科学 1 O ボン・債券の仕組み 1 O 非式・債券の仕組み 1 O 「丁サービス概論(応用) 1 O 非式・債券の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 O 素林生態学の基礎 1 O 森林生態学の基礎 1 O 素林生態学の基礎 1 O 素林生態学の基礎 1 O 添んの科学、細胞が現代社会に訴えること(注 1 - O 若年層の疾病と健康管理A(注6) 1 O	心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-B(注	1	-	_	0
		1	_	_	0
会計情報の持つ意味 (注5) (注8) 1 O 組織経営と会計 (注5) (注8) 1 O 教養としての中国古代帝王伝説 (注8) 1 O 光通信ネットワークの科学 (注3) (注5) (注 1 - O 別 こころとからだの科学 (注3) (注8) 1 O 森林生態系の機能 (注5) (注8) 1 O 職とストレス (注8) 1 O 脳と体の健康について (注8) 1 O 脳と体の健康について (注8) 1 O 緊としての書道実技 (注6) 1 O 教養としての書道実技 (注6) 1 O 教養としての書道実技 (注6) 1 O 教養としての書道実技 (注6) 1 O 取役の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 取役の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 取後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 取役の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 取役の日本経済一戦後後興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 取後の日本経済一代ブル発生から平成の終わりま 1 O 取後の日本経済一代ブル発生から平成の終わりま 1 O 取後の日本経済一代ブル発生から平成の終わりま 1 O 取後の日本経済ーパブル発生から平成の終わりま 1 O 取後の日本経済ーパブル発生から平成の終わりま 1 O 取後の日本経済ーパブル発生から平成の終わりま 1 O 取後の日本経済ーパブル発生から平成の終わりま 1 O 本式・債券の仕組み 1 O 「財・一・・・」の 「財・一・・・」の 本様生態学の基礎 1 O 「現境問題を科学の視点で考える (注6) 1 O 森林生態学の基礎 1 O 「森林生態学の基礎 1 O 「本林生態学の基礎 1 O 「本林生態学の基礎 1 O 「本林生態学の基礎 1 O 「本林で、和胎が現代社会に訴えること (注 1 - O 「おんの科学、細胞が現代社会に訴えること (注 1 O 「おんの科学、細胞が現代社会に訴えること (注 1 O 「表生層の疾病と健康管理 A (注6) 1 O 「おんの科学、細胞が現代社会に訴えること (注 1 O 「オ生層の疾病と健康管理 A (注6) 1 O 「オ生層の疾病と健康管理 A (注6) 1 O 「	世界の言語と文化(注3)(注4)(注8)	1	_	_	0
田機経営と会計(注5)(注8) 1 O 数差としての中国古代帝王伝説(注8) 1 O 数養としての中国古代帝王伝説(注8) 1 O 光通信ネットワークの科学(注3)(注5)(注 1 O 表体生態系の機能(注5)(注8) 1 O 森林生態系の機能(注5)(注8) 1 O 臓とストレス(注8) 1 O 脳と木トレス(注8) 1 O 脳と木の健康(ついて(注8) 1 O 脳と体の健康について(注8) 1 O 脳と体の健康について(注8) 1 O 双表養としての書道実技(注6) 1 O 取役の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 取役の日本経済ー、パブル発生から平成の終わりま 1 O 取扱の日本経済ー、パブル発生がら平成の終わりま 1 O 本式・債券の仕組み 1 O 様式・債券の仕組み 1 O は初が現代組みとものづくりの基礎(注6) 1 O 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 O 森林生態学の基礎 1 O 植物バイオテクノロジーの展開 1 O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 O	決算書のしくみ(注5)(注8)	1	_	_	0
世ューマンコミュニケーション (注8) 1 O 教養としての中国古代帝王伝説 (注8) 1 O 光通信ネットワークの科学 (注3) (注5) (注 こころとからだの科学 (注3) (注8) 1 O 森林生態系の機能 (注5) (注8) 1 O 機能性食品と健康 (注8) 1 O 臓とストレス (注8) 1 O 脳と水トレス (注8) 1 O 脳と水の健康について (注8) 1 O 脳と体の健康について (注8) 1 O 脳と体の健康について (注8) 1 O 双養学のすすめ (注8) 1 O 双養としての書道実技 (注6) 1 O 現代の美術表現 1 O 現代の美術表現 1 O 取後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 取後の日本経済ーパブル発生から平成の終わりま で 株式・債券の仕組み 1 O 市場と感情の科学 1 O 打サービス概論 (応用) 1 O 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎 (注6) 1 O 東域問題を科学の視点で考える (注6) 1 - O 森林生態学の基礎 1 - O 植物パイオテクノロジーの展開 1 - O がんの科学、細胞が現代社会に訴えること (注 6) 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - O	会計情報の持つ意味(注5) (注8)	1	_	_	0
教養としての中国古代帝王伝説(注8) 1 O	組織経営と会計(注5)(注8)	1	_	_	0
光通信ネットワークの科学 (注3) (注5) (注 1 O	ヒューマンコミュニケーション (注8)	1	_	_	0
8)	教養としての中国古代帝王伝説(注8)	1	_	_	0
森林生態系の機能(注5)(注8) 1 ○ 機能性食品と健康(注8) 1 ○ 脳とストレス(注8) 1 ○ 医学にかかわる化学(注8) 1 ○ 脳と体の健康について(注8) 1 ○ ※養学のすすめ(注8) 1 ○ 名画を陳む一美術史入門-(注6) 1 ○ 我養としての書道実技(注6) 1 ○ 現代の美術表現 1 ○ 取役の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 ○ 職後の日本経済一戦後復興から平成の終わりまで 1 ○ 「株式・債券の仕組み 1 ○ 「株式・債券の仕組み 1 ○ 「およ・債券の仕組み 1 ○ 「ボサービス概論(基礎) 1 ○ 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 ○ 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 ○ 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 ○ 福物バイオテクノロジーの展開 1 ○ 若年層の疾病と健康管理人(注6) 1 ○ 若年層の疾病と健康管理人(注6) 1 ○		1	-	_	0
機能性食品と健康(注8) 1 ○ 脳とストレス(注8) 1 ○ 医学にかかわる化学(注8) 1 ○ 脳と体の健康について(注8) 1 ○ 栄養学のすすめ(注8) 1 ○ 教養としての書道実技(注6) 1 ○ 現代の美術表現 1 ○ 別保の美術表現 1 ○ 歌後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 ○ 戦後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 ○ 職後の日本経済一ペブル発生から平成の終わりま 0 - ○ 株式・債券の仕組み 1 ○ 株式・債券の仕組み 1 ○ 「丁サービス概論(基礎) 1 ○ IT サービス概論(応用) 1 ○ 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 ○ 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 ○ 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 ○ 森林生態学の基礎 1 ○ 福物パイオテクノロジーの展開 1 ○ 指物パイオテクノロジーの展開 1 ○ 若年層の疾病と健康管理A(注6) 1 ○	こころとからだの科学(注3)(注8)	1	_	_	0
脳とストレス (注8) 1 O 医学にかかわる化学 (注8) 1 O 脳と体の健康について (注8) 1 O 栄養学のすすめ (注8) 1 O 名画を読む~美術史入門- (注6) 1 O 現代の美術表現 1 O 別のまをテーマとした問題解決学習 1 O 戦後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 戦後の日本経済一代ブル発生から平成の終わりま 1 O で 株式・債券の仕組み 1 O 市場と感情の科学 1 O 「IT サービス概論 (基礎) 1 O リエウービス概論 (応用) 1 O 専近な製品の仕組みとものづくりの基礎 (注6) 1 O 環境問題を科学の視点で考える (注6) 1 O 森林生態学の基礎 1 O 植物バイオテクノロジーの展開 1 O 潜年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - O	森林生態系の機能(注5)(注8)	1	_	_	0
医学にかかわる化学(注8) 1 - O 脳と体の健康について(注8) 1 - O 栄養学のすすめ(注8) 1 - O 名画を読む~美術史入門~(注6) 1 - O 教養としての書道実技(注6) 1 - O 現代の美術表現 1 - - O 取役の日本経済一散後復興から東欧・ソ連の崩壊まで 1 - - O 取後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊で 1 - - O 株式・債券の仕組み 1 - - O 株式・債券の仕組み 1 - - O 市場と感情の科学 1 - - O IT サービス概論(基礎) 1 - - O IT サービス概論(基礎) 1 - - O 専売な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 - - O 東境問題を科学の視点で考える(注6) 1 - - O 東境問題を科学の視点で考える(注6) 1 - - O 権物パイオテクノロジーの展開 1 - - O	機能性食品と健康(注8)	1	_	_	0
脳と体の健康について(注8) 1 O 栄養学のすすめ(注8) 1 O 教養としての書道実技(注6) 1 O 現代の美術表現 1 O 現代の美術表現 1 O 取後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 戦後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 軟後の日本経済一戦後復興から平成の終わりま 1 O 株式・債券の仕組み 1 O 株式・債券の仕組み 1 O 「丁サービス概論(基礎) 1 O 「丁サービス概論(基礎) 1 O 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 O 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 O 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 O 森林生態学の基礎 1 O 植物パイオテクノロジーの展開 1 - O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - O	脳とストレス(注8)	1	_	_	0
栄養学のすすめ (注8) 1 O 名画を読む-美術史入門- (注6) 1 O 教養としての書道実技 (注6) 1 O 現代の美術表現 1 O 職後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 職後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 職後の日本経済一バブル発生から平成の終わりまで 1 O で株式・債券の仕組み 1 O で株式・債券の仕組み 1 O 「	医学にかかわる化学(注8)	1	_	_	0
名画を読む-美術史入門-(注6) 1 O 教養としての書道実技(注6) 1 O 現代の美術表現 1 O 駅後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊まで 1 O 職後の日本経済一戦後復興から平成の終わりまで 1 O 職後の日本経済ーパブル発生から平成の終わりまで 1 O 下場と感情の科学 1 O IT サービス概論(基礎) 1 O IT サービス概論(応用) 1 O 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 - O 専近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 - O 専がな製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 - O 「環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 - O 「森林生態学の基礎 1 O 「	脳と体の健康について (注8)	1	_	_	0
教養としての書道実技(注6) 1 O 現代の美術表現 1 O SDGs をテーマとした問題解決学習 1 O 職後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 O 職後の日本経済一戦後復興から平成の終わりま 1 O 株式・債券の仕組み 1 O 市場と感情の科学 1 O IT サービス概論(基礎) 1 O IT サービス概論(基礎) 1 O IT サービス概論(応用) 1 O IT サービス概論(応用) 1 O 基礎(注6) 1 O 基本生態学の基礎 1 O 基本生態学の基礎 1 O 基本生態学の基礎 1 O 基本生態学の基礎 1 O 基本体生態学の基礎 1 O D D D D D D D D D D D D D D D D D	栄養学のすすめ (注8)	1	_	_	0
現代の美術表現 1 ○ SDGs をテーマとした問題解決学習 1 ○ 戦後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 1 ○ 戦後の日本経済一パブル発生から平成の終わりま 1 ○ 株式・債券の仕組み 1 ○ 市場と感情の科学 1 ○ IT サービス概論(基礎) 1 ○ IT サービス概論(本礎) 1 ○ 以び製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 ○ 毒が上態学の基礎 1 ○ 森林生態学の基礎 1 ○ 森林生態学の基礎 1 ○ 精物パイオテクノロジーの展開 1 ○ 潜作圏の疾病と健康管理 A (注6) 1 ○ 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 ○	名画を読む-美術史入門- (注6)	1	_	_	0
SDGs をテーマとした問題解決学習 1 - - ○ 戦後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊まで 1 - - ○ 戦後の日本経済一パブル発生から平成の終わりまで 1 - - ○ 株式・債券の仕組み 1 - - ○ IT サービス概論(基礎) 1 - - ○ IT サービス概論(応用) 1 - - ○ 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 - - ○ ものの科学(注6) 1 - - ○ 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 - - ○ 積物パイオテクノロジーの展開 1 - - ○ 植物パイオテクノロジーの展開 1 - - ○ 潜物の科学、細胞が現代社会に訴えること(注6) 1 - - ○ 若年層の疾病と健康管理A(注6) 1 - - ○	教養としての書道実技(注6)	1	_	_	0
戦後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊まで 1 ○ 戦後の日本経済ーパブル発生から平成の終わりまで 1 ○ 株式・債券の仕組み 1 ○ 市場と感情の科学 1 ○ ITサービス概論(基礎) 1 ○ ITサービス概論(応用) 1 ○ 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 ○ ものの科学(注6) 1 ○ 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 ○ 森林生態学の基礎 1 ○ 植物パイオテクノロジーの展開 1 ○ がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注6) 1 ○ 若年層の疾病と健康管理A(注6) 1 ○	現代の美術表現	1	_	_	0
まで 間後の日本経済ーパブル発生から平成の終わりま 1 ○	SDGs をテーマとした問題解決学習	1	_	_	0
で 1 - - O 株式・債券の仕組み 1 - - O IT サービス概論(基礎) 1 - - O IT サービス概論(応用) 1 - - O 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 - - O 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 - - O 森林生態学の基礎 1 - - O 植物パイオテクノロジーの展開 1 - - O がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注6) 1 - - O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - - O		1	_	_	0
市場と感情の科学 1 O ITサービス概論(基礎) 1 O ITサービス概論(応用) 1 O 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 O ものの科学(注6) 1 O 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 O 森林生態学の基礎 1 O 植物バイオテクノロジーの展開 1 O がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注6) 1 - O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - O		1	-	_	0
ITサービス概論(基礎) 1 - - O ITサービス概論(応用) 1 - - O 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 - - O ものの科学(注6) 1 - - O 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 - - O 森林生態学の基礎 1 - - O 植物バイオテクノロジーの展開 1 - - O がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注6) 1 - - O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - - O	株式・債券の仕組み	1	_	_	0
ITサービス概論(応用) 1 ○ 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 ○ ものの科学(注6) 1 ○ 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 ○ 森林生態学の基礎 1 ○ 植物バイオテクノロジーの展開 1 ○ がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注 1 - ○ 若年層の疾病と健康管理 A(注6) 1 - ○	市場と感情の科学	1	_	_	0
身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6) 1 - - O ものの科学(注6) 1 - - O 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 - - O 森林生態学の基礎 1 - - O 植物パイオテクノロジーの展開 1 - - O がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注6) 1 - - O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - - O	IT サービス概論(基礎)	1	_	_	0
ものの科学(注6) 1 O 環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 O 森林生態学の基礎 1 O 植物パイオテクノロジーの展開 1 O がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注6) 1 O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - O	IT サービス概論(応用)	1	_	-	0
環境問題を科学の視点で考える(注6) 1 O 森林生態学の基礎 1 O 植物パイオテクノロジーの展開 1 O がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注6) 1 O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 O	身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6)	1	_	_	0
森林生態学の基礎 1 O 植物パイオテクノロジーの展開 1 - O がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注 6) 1 - O 若年層の疾病と健康管理 A (注 6) 1 - O	ものの科学(注6)	1	_	-	0
植物バイオテクノロジーの展開 1 - - O がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注 6) 1 - - O 若年層の疾病と健康管理 A (注 6) 1 - - O	環境問題を科学の視点で考える(注6)	1	_	_	0
がんの科学、細胞が現代社会に訴えること(注 1 O 若年層の疾病と健康管理 A (注 6) 1 - O	森林生態学の基礎	1	_	-	0
6) 1 O 若年層の疾病と健康管理 A (注6) 1 - O	植物バイオテクノロジーの展開	1	_	_	0
		1	_	_	0
若年層の疾病と健康管理 B (注 6) 1 - O	若年層の疾病と健康管理 A (注 6)	1	_	_	0
	若年層の疾病と健康管理 B (注 6)	1	_	-	0

	情報生物学と疾患遺伝の基礎(注6)	1	_	_	0		
	瀬戸内海の環境と諸問題(注6)	1	_	_	0		
	瀬戸内海の環境と保全(注6)	1	_	_	0		
	防災リテラシー養成講座(災害を知る)A	1	_	0	_		特別主題(地域) 令和3年度まで主
	防災リテラシー養成講座(災害を知る)B	1	_	0	_		題科目(主題 C)
	防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)	2	_	0	_		
	主題 C - 実践型科目	1又 は2	_	_	0		
	特別主題(地域)-実践型科目	1又 は2	_	_	0		
	地域課題発見・解決のための経済分析	1	_	_	0		特別主題(数理· DS)
	情報科学	2	_	_	0	-	学問基礎科目
	DRI イノベーター養成プログラム課題研究 (注 1)	2	0	_	_		高度教養教育科目 令和3年度まで高 度教養教育科目 広範教養教育科目
教育学部	学校防災論(注7)	2	1	0	_		教育学部開設科目
法 学 部	保険法(注7)	2	_	0	_		法学部開設科目 *他学部生の受入上限 人数に条件あり
	経済政策	2	_	_	0		経済学部開設科目
	地域活性化論	2	_	_	0		
経	まちづくり論	2	_	_	0		
済	リスクと保険	2	_	0	_		
学	社会政策 A	2	_	0	_		
部	社会政策 B	2	_	0	_		
	保険システム論	2	_	0	_		
	経済統計	2	_	_	0		
医 学 部	公衆衛生学(注7)	1	_	0	_	4以上	医学部看護学科開設科 目 他学部生の受講は認 めない *医学科と臨床 心理学科生は1年次以 上受講可
	リスクマネジメント	2	_	0	_		創造工学部開設科 目
	地震・津波災害科学	2	-	0	_		
創	防災危機管理概論	1	1	0	_		
造	災害史	1	1	0	_		
I	自然災害科学	1	_	0	_		
学	レジリエンス科学	1	_	0	_		
部	防災情報科学	2	_	0	_		
	被害想定と防災計画	2	_	0	_		
	レジリエンスデザイン	2	_	0	_		
	計算機入門	2	_	_	0		
	確率・統計	2	_	_	0		
農学部	環境科学(注7)	2	_	0	_		農学部開設科目 他学部生の受講は 認めない
	修了要件単位数合計		3	6 以上	(3)	12 以上	

- (注1)DRIイノベーター養成プログラム専用科目
- (注2)令和2年度まで開講
- (注3)令和3年度開講分よりプログラム対象科目
- (注4)令和3年度まで、主題 B として開講・プログラム対象科目
- (注5)令和3年度まで開講
- (注6)令和4年度開講分よりプログラム対象科目
- (注7)令和2年度に参加登録した学生についても、プログラム修了要件単位に算入可
- (注8)令和3年度以前の入学者は、全学共通科目「コース科目」または全学共通科目「履修可能な他コース科目」 のどちらか希望する区分の修了要件単位に算入可
- (注9)履修可能な他コース科目は()内の単位数を上限として修了要件単位数の単位として認定する。

「コース

開設学部等	授業科目	単位数	必修 科目	コース 科目	履修可能な 他コース科 目	修了 要件 単位数	科目区分												
	はじめて学ぶ DRI	1	0	_	_		主題 令和3年度まで												
	差別とマイノリティ	1	_	_	0		主題科目(主題 B)												
	マイノリティのライフヒストリー	1	_	_	0														
	社会デザインとマイノリティ問題	1	_	_	0														
	人を動かすロジカルコミュニケーション	1	_	0	_														
	知プラ e 科目 データサイエンスを活用した防 災・危機管理	1	_	◎ (注9)	_														
	知プラ e 科目 レジリエントな社会の構築とコン ピューターシミュレーション	1	_	◎ (注9)	_														
	知プラ e 科目 災害とデータサイエンス	1	_	◎ (注9)	_														
	知プラ e 科目 高度情報化社会の歩き方	1	_	0	_														
	知プラ e 科目 コンピュータと教育 その 1	1	_	0	_														
	知プラ e 科目 コンピュータと教育 その 2	1	_	0	_					-	_		_						
	企業と社会の関係 A	1	_	_	0														
	企業と社会の関係B	1	_	_	0														
全	くらしと金融(注5)	1	_	_	0														
学	幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育 ち	1	_	_	0														
共	プロジェクトさぬき	1	_	-	0	4以上													
通	国際協力論 A	1	_	_	0														
科	国際協力論 B	1	_	_	0														
目	サーバント・リーダー養成入門 I	1	_	_	0														
	光通信に関わるセキュリティ技術(注5)	1	_	_	0														
	加工食品の現状と今後の展望(注2)(注8)	1	_	_	0														
	微生物が関わる生活環境(注2)(注8)	1	_	_	0														
	発達障害当事者研究の意義 I (注2)(注8)	1	-	_	0														
	文系学生のための人体解剖学(注2) (注8)	1	_	_	0														
	心と体の健康(注8)	1	_	_	0														
	生命保険を考える(注8)	1	_	_	0														
	日本の歴史と現代社会(注2)(注8)	1	_	_	0														
	経済学の歴史(注2)(注8)	1	_	_	0														
	古典で学ぶ経済学(注2)(注8)	1	_	_	0														
	心と身体の関係と医療(注8)	1	-	_	0														
	人間と健康を考える生理学(注2)(注8)	1	_	_	0														
	ケアリングと健康(注5)(注8)	1	-	_	0														
	子どもの視座から教育を考える(注8)	1	_	_	0														

社会と金融(注2)(注8)	1	_	_	0
Leading Edge Issues in Kagawa University (注8)	1	_	_	0
海外体験型異文化コミュニケーション I (注8)	1	_	-	0
食品加工と食生活(注2)(注8)	1	_	_	0
心の健康と援助 −臨床心理学の観点から− (注2)(注8)	1	_	_	0
心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-A (注8)	1	_	_	0
心の健康と援助 -臨床心理学の観点から-B (注8)	1	_	_	0
学習環境の現在と未来 (注8)	1	_	_	0
世界の言語と文化(注3)(注4)(注8)	1	_	_	0
決算書のしくみ(注5)(注8)	1	_	_	0
会計情報の持つ意味(注5)(注8)	1	_	_	0
組織経営と会計(注5)(注8)	1	_	_	0
ヒューマンコミュニケーション(注8)	1	_	_	0
教養としての中国古代帝王伝説(注8)	1	_	_	0
光通信ネットワークの科学 (注3) (注5) (注8)	1	_	_	0
こころとからだの科学(注3)(注8)	1	_	_	0
森林生態系の機能(注 5) (注 8)	1	_	_	0
機能性食品と健康(注8)	1	_	_	0
脳とストレス(注8)	1	_	_	0
医学にかかわる化学(注8)	1	_	_	0
脳と体の健康について(注8)	1	_	_	0
栄養学のすすめ(注8)	1	_	_	0
名画を読む-美術史入門-(注6)	1	_	_	0
教養としての書道実技(注6)	1	_	_	0
現代の美術表現	1	_	_	0
SDGs をテーマとした問題解決学習	1	_	_	0
戦後の日本経済一戦後復興から東欧・ソ連の崩壊 まで	1	_	_	0
戦後の日本経済ーパブル発生から平成の終わりま で	1	_	_	0
株式・債券の仕組み	1	_	_	0
市場と感情の科学	1	_	_	0
IT サービス概論(基礎)	1	_	_	0
IT サービス概論(応用)	1	_	_	0
身近な製品の仕組みとものづくりの基礎(注6)	1	_	_	0
ものの科学(注6)	1	_	_	0
環境問題を科学の視点で考える (注6)	1	_	_	0
森林生態学の基礎	1	_	_	0
植物バイオテクノロジーの展開	1		_	0
	1	_	_	0

	若年層の疾病と健康管理 A(注6)	1	_	_	0		
	若年層の疾病と健康管理 B (注 6)	1	_	-	0		
	情報生物学と疾患遺伝の基礎(注6)	1	_	_	0		
	瀬戸内海の環境と諸問題(注6)	1	_	_	0		
	瀬戸内海の環境と保全(注6)	1	_	_	0		
	防災リテラシー養成講座(災害を知る)A	1	_	_	0		特別主題(地域)
	防災リテラシー養成講座(災害を知る)B	1	_	_	0		令和3年度まで 主題科目(主題
	防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)	2	_	_	0		C)
	主題 C - 実践型科目	1又 は2	_	_	0		
	特別主題(地域)-実践型科目	1又 は2	_	_	0	-	
	地域課題発見・解決のための経済分析	1	_	_	0		特別主題(数 理·DS)
	情報科学	2 - 0 -		_	-	学問基礎科目	
	数学	各 2	_	0	_	-	
	DRI イノベーター養成プログラム課題研究 (注 1)	2	0	-	_		高度教養教育 科目 令和3年度まで 高度教養教育 科目・広範教養 教育科目
教育学部	教育統計学(注7)	2	_	0	_		教育学部開設 科目
	経済政策	2	_	-	0		経済学部開設 科目
	地域活性化論	2	_	1	0		
	まちづくり論	2	_	ı	0		
	リスクと保険	2	_	1	0		
経	社会政策 A	2	_	-	0		
済	社会政策 B	2	_	-	0		
学	保険システム論	2	_	1	0		
部	統計学入門	2	_	0	_		
	統計学	2	_	0	_	4以上	
	計量経済学Ⅰ	2	_	0	_		
	計量経済学II	2	_	0	_		
	経済統計	2	_	0	_		
	生物統計学(注7)	1	_	0	_		医学部医学科 開設科目 医学科生以外 の受講を認め ない
医学部	看護統計論(注7)	1	_	0	_		医学部看護学科開 設科目 他学部生の 受講は認めない * 医学科と臨床心理学 科生は1年次以上 受講可
	心理学統計法(注7)	2	-	0	_		医学部臨床心 理学科開設科 目 臨床心理学科 生以外の受講 を認めない

	インタラクションデザイン	1	_	_	0		創造工学部開 設科目	
	マルチメディアクリエイティブ入門	1	_	_	0			
創	計算機入門	2	_	0	_			
造	基礎数学演習	1	_	0	_			
ı	微分・積分	2	_	0	_			
学	線形代数	2	_	0	_			
部	プログラミング	2	_	0	_			
HF	確率・統計	2	_	0	_			
	ベクトル解析	2	_	0	_			
	線形計画法	1	_	0	_			
	非線形計画法	1	_	0	_			
	近似論	1	_	0	_			
	映像・画像・音声処理技術概論	1	_	0	_			
	教育工学		_	0	_			
	地域社会とコンテンツ	1	_	0	_			
	教育メディア	1	_	0	_			
	修了要件単位数合計	3	6 以上	(3)	12 以上			

- (注1)DRIイノベーター養成プログラム専用科目
- (注2)令和2年度まで開講
- (注3)令和3年度開講分よりプログラム対象科目
- (注4)令和3年度まで、主題 B として開講・プログラム対象科目
- (注5)令和3年度まで開講
- (注6)令和4年度開講分よりプログラム対象科目
- (注7)令和2年度に参加登録した学生についても、プログラム修了要件単位に算入可
- (注8)令和3年度以前の入学者は、全学共通科目「コース科目」または全学共通科目「履修可能な他コース科目」 のどちらか希望する区分の修了要件単位に算入可
- (注9)いずれか1科目(1単位)以上を修得
- (注10)履修可能な他コース科目は()内の単位数を上限として修了要件単位数の単位として認定する。

DRIイノベーター養成プログラム参加登録申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部・学科・課程

学籍番号

氏 名

メールアドレス

電話番号

私は、DRIイノベーター養成プログラム下記コースの参加登録を申請します。

記

Dコース、Rコース及びIコースから希望する 1つのコース名を記載のこと。

DRIイノベーター養成プログラム修了認定申請書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

年度入学

学部 • 学科 • 課程

学籍番号

氏 名

メールアドレス

電話番号

私は、DRIイノベーター養成プログラムについて、別添のとおり単位を修得したので、 修了の認定を申請します。

[添付書類]

別表【第4条関係】

※単位を修得した授業科目名に蛍光ペン等で印を付けること。

◆香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規程◆

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学ネクストプログラム(以下「ネクストプログラム」という。)における修学に必要な経費を支援するため、ネクストプログラムに参加が決定した学生(以下「プログラム学生」という。)に貸与する奨学金に関し必要な事項を定める。

(貸与の対象者)

第2条 奨学金の貸与を受けることができる者は、次の各号のすべてに該当するプログラム学生とする。

- (1) 香川大学学則(以下「学則」という。)に規定する懲戒等の処分を受けていない者
- (2)他の経費(外部の機関からの経費を除く。)からネクストプログラムに関して貸与又は支給を受けない者

(奨学金の貸与人数及び貸与額)

第3条 毎年度の奨学金を貸与する学生数及び貸与額は、学長が予算の範囲内で別に定める。

(募集)

第4条 奨学金貸与希望者の募集は、ネクストプログラムのプログラムごとに定める奨学金貸与細則 (以下「貸与細則」という。)により行う。

(申込み)

第5条 奨学金の貸与を受けようとするプログラム学生(以下「申請者」という。)は、貸与細則に定める所 定の書類を学長に提出しなければならない。

(連帯保証人)

第6条 申請者は、前条の申込みに当たり、父母兄姉又はこれらに準ずる者1人を連帯保証人として立てなければならない。

2 前項の連帯保証人は、独立の生計を営む成年者でなければならない。

(受給者の選考及び決定)

第7条 受給者の決定は、香川大学ネクストプログラム運営委員会(以下「運営委員会」という。)の選考を経て、学長が行う。

2 学長は、前項により受給者(以下「奨学生」という。)を決定したときは、申請者及び所属学部長に通知するものとする。

(支給方法)

第8条 奨学金は、一括支給とし、原則として奨学生の指定する金融機関の口座に振り込むものとする。

(取消し及び返還)

第9条 学長は、奨学生が次の各号のいずれかの事由に該当するときは、運営委員会の議を経て、奨学金支給の取消を決定し、奨学生に奨学金の全額又は一部を返還させることができる。

- (1) 退学、除籍又は転学したとき。
- (2) 学則に規定する懲戒等の処分を受けたとき。
- (3) 心身の故障のため修学を継続する見込みがなくなったと認められるとき。
- (4) 奨学金支給を辞退したとき。
- (5) 死亡したとき。
- (6) 偽りその他不正の手段により奨学金支給を受けたとき。
- (7) その他運営委員会において、奨学金支給の目的を達成する見込みがなくなったと認められるとき。

(返還免除)

第 10 条 奨学生が、ネクストプログラムを修了し、所属学部を卒業したときは、奨学金の全額を返還免除するものとする。

(返還の猫予)

第 11 条 奨学生が、災害、疾病その他やむを得ない事由により、奨学金を返還することが困難であるときは、当該奨学生の在学期間中に限り、奨学金の返還を猶予することができる。

2 前項の規定による奨学金の返還の猶予を受けようとする者は、貸与細則に定める所定の書類を学長に提出しなければならない。

(返還金の取扱い)

第12条 返還金に係る債権の取扱いは、国立大学法人香川大学債権管理細則に定めるところによる。

(届出)

第13条 奨学生は、第9条各号に掲げる事由が生じたとき又は本人若しくは連帯保証人の氏名、住所、その他重要な事項に変更が生じたときは、貸与細則に定める所定の書類を速やかに学長に提出しなければならない。

2 連帯保証人は、奨学生が死亡したとき又は心身の故障のため修学を継続する見込みがなくなったと認められるときは、貸与細則に定める所定の書類を速やかに学長に提出しなければならない。

(雑則)

第 14 条 この規程及び貸与細則に定めるもののほか、奨学金の貸与に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成25年11月21日から施行し、平成25年4月1日から適用する。 なお、この規程は、施行日から起算して3年以内に、この規程の施行の状況について検討し、その結果に 基づいて必要な措置を講ずるものとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成28年6月1日から施行する。

◆香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラム参加学生の修学支援に 係る奨学金貸与細則◆

(趣旨)

第1条 この細則は、香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規程(以下「奨学金貸与規程」という。)に基づき、香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラムにおける 奨学生に貸与する奨学金(以下「プログラム奨学金」という。)について必要な事項を定める。

(貸与条件)

第2条 プログラム奨学金の貸与条件は、以下のとおりとし、その全てを満たすこととする。

- (1) 日本国籍を有する者又は日本への永住を許可されている者であること。
- (2) 留学開始及び留学中に要する経費の支払いを完了できる者であること。
- (3) 人物、学業成績とも優秀であること。
- (4) 香川大学が指定する海外留学保険及び留学先大学が指定する各種保険に加入すること。

(募集)

第3条 募集時期は、留学先大学の入学日の2ヶ月前の月とする。

(奨学金の申請書類等)

第4条 奨学金貸与規程第5条に規定する書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 奨学金貸与申請書(別紙様式第1)
- (2) 奨学金誓約書(別紙様式第2)
- (3) 口座振込依頼書(本学所定様式)
- (4) 入学許可書の写し
- (5) 健康診断書の写し
- 2 奨学金貸与規程第11条に規定する書類は、別紙様式第3によるものとする。
- 3 奨学金貸与規程第13条に規定する書類は、別紙様式第4によるものとする。

(対象経費・貸与額)

第5条 プログラム奨学金の対象経費は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 検定試験経費(TOEFL試験受験料、HSK試験受験料)
- (2) 留学先の寮費
- (3) 第2条第4号に規定する保険料
- (4) 渡航費
- (5) 留学先大学の授業料(授業料相互不徴収協定校へ留学の場合を除く。)

- 2 貸与額は、次の各号に掲げる額を上限とし、予算の範囲内で毎年度定める。
- (1) 英語コース: 1人あたり150万円

ただし、第5条第1号から第4号までに対する経費の上限を70万円、第5条第5号に対する経費の上限を80万円とする。

(2) 中国語コース: 1人あたり50万円

ただし、第5条第1号から第4号までに対する経費の上限を40万円、第5条第5号に対する経費の上限を10万円とする。

(他の奨学金等との併給の調整)

第6条 香川大学以外の機関から奨学金に相当する貸与又は給付を受けた場合には、その者に対する奨学金の貸与額は、前条第2項に定める額から外部の機関から貸与又は給付を受ける額の総額を控除した額を上限とする。

(雑則)

第7条 この細則に定めるもののほか、奨学金の貸与に関し必要な事項は、香川大学ネクストプログラム運営委員会の議を経て学長が別に定める。

附 則

この細則は、平成25年11月21日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成28年6月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

ネクストプログラム奨学金貸与申請書

令和 年 月 日

	香川大学長 殿		17 T
		申請者 グローバル人材育	育成プログラム
		学籍番号	
		ふりがな 氏 名	
		ふりがな 法定代理人名	<u>.</u>
		法定代理人名 (未成年者の場合)	印
	弘は、香川大学ネクストプログラム参加学 を受けたいので、同規程の内容に同意の上	、下記のとおり申請します	
		記	
1	貸与希望金額 <u>金</u> 類似の奨学金の受給(予定)の有無	<u> </u>	
	□ 有(その名称:)	· 口無
3	添付書類 □ 奨学金誓約書(別紙様式第2) □ 口座振込依頼書(本学所定様式) □ 入学許可書の写し □ 健康診断書の写し		
			指導教員又は教務委員 の承認印

ネクストプログラム奨学金誓約書

令和 年 月 日

香川大学長 殿

私は、香川大学ネクストプログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規程を遵守することを誓います。

ネクストプログラム奨学生

私は、奨学金の返還が生じたときの債務を、本人と連帯してその責任を負います。

連帯保証人

ネクストプログラム奨学金返還猶予申請書

令和 年 月 日

季川ス	大学長 殿						ገን ብ	ı 1	- л	
			ネ	クスト	プログラ	ム奨学生				
				学	籍番号					
					がな					
					氏 名 ふりがな 法定代理人名 (未成年者の場合)					E
	ノは、香川大学ネクス 								見程第1	1条
規定	Eにより、奨学金の返i	還の猶予る	を受けた	といので	で、下記	のとおり	申請しる	ます。		
				記						
				記						
1	奨学金貸与期間	令和	年	月	日 ~	• 令和	年	月	日	
2	奨学金受給金額	<u>金</u>			円					
3	返還猶予希望期間	令和	年	月	日 ~	, 令和	年	月	日	
4	返還猶予の理由									

返還猶予の理由の事実が確認(証明)できる書類

ネクストプログラム奨学金に関する届出書

香川大学長	殿		令和	年	月	日
		届出者				
		^{ふりがな} 氏 名				印
香川大学ネ	·クスト	- プログラム参加学生の修学支援に係る奨学金貸与規定	第13条(:	こより、	下記(D
とおり届け出	ます。					
		5萬				
	1	ネクストプログラム奨学生				
		学籍番号				
		ふりがな 氏 名				
	2	届出の事由				
		□退学□除籍□転学				
		□ 本学学則に規定する懲戒等の処分を受けた				
		□ 心身の故障のため修学を継続する見込みがなく	なった			
		□ 奨学金支給の辞退				
		口 奨学生の死亡				
		□ 奨学生の氏名又は学籍番号の変更 □ 奨学生	の住所の	変更		
		□ 連帯保証人の氏名の変更 □ 連帯保証人の住	听の変更	Ī		
		口 連帯保証人の変更				
		□ その他()		
		※届出の事由の事実が確認できる書類を添付するこ	٤			

4. 問い合わせ先・案内図

◆問い合わせ先・案内図

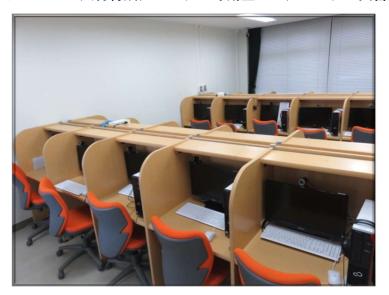
① 教育・学生支援部 修学支援課 ☎ (087)-832-1365



幸町北キャンパス 大学会館2階



② グローバル人材育成プログラム専用室「GEプログラム実習室」



KAGAWA UNIVERSITY



^{2022 年度} ネクストプログラム履修の手引 2022.11.8一部改正

教育·学生支援部修学支援課

〒760-8521 高松市幸町1-1 大学会館2階

TEL (087) 832—1365 FAX (087) 832—1155